

平成30年～令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人愛知県文化振興事業団
施 設 名	愛知県芸術劇場
助 成 対 象 活 動 名	劇場による地域文化向上プロジェクト
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	平成30年度 61,373 平成31年度 57,114 令和2年度 54,654 (千円) 令和3年度 54,697 令和4年度 58,763

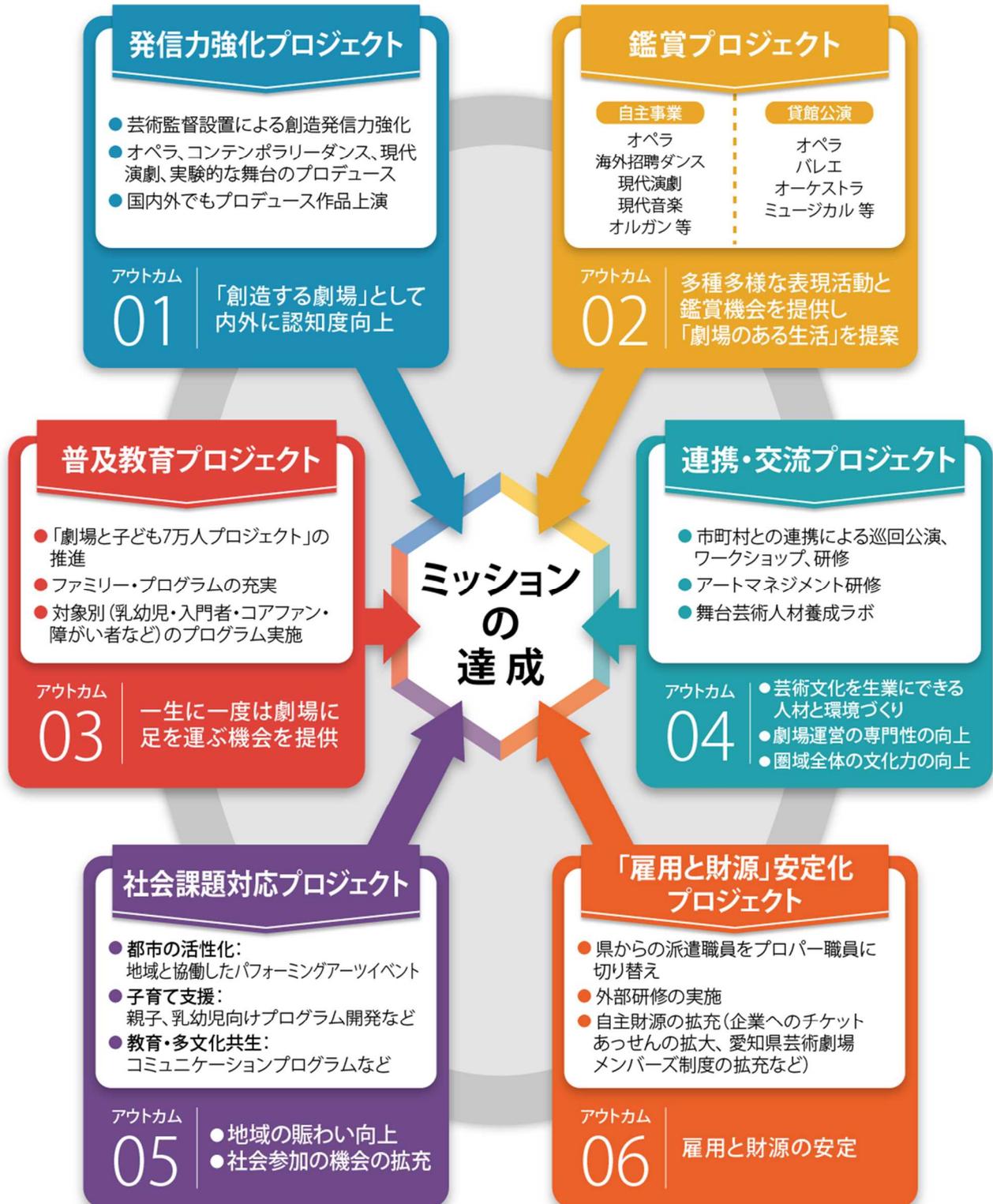
1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

(事業名)

劇場による地域文化向上プロジェクト



(2) 令和4年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』 一般公演	2022年6月12日(日)	出演：角田鋼亮(指揮)、愛知室内オーケストラ(管弦楽)、伊藤晴／柴田紗貴子 他、演出：太田麻衣子	目標値	330
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	268
2	オルガン・アワー ～音のシャワーで心リフレッシュ～	2022年6月24日(金)	オルガン：徳岡めぐみ	目標値	1,041
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	753
3	Noism×鼓童「鬼」 同時上演：ディアギレフ生誕150周年「結婚」	2022年7月23日(土)	演出・振付・ダンス：金森穰 ダンス：Noism Company Niigata 演奏：鼓童、作曲：原田敬子	目標値	1,306
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	957
4	勅使川原三郎 ライヴミュージック&ダンス「天上の庭」	2022年9月16日(金)、17日(土)	演出・照明・衣装・選曲・ダンス：勅使川原三郎、アーティスト：コレクター・ダンス：佐東利穂子、チェロ：ヨナタン・ローゼマン	目標値	1,200
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	425
5	芸文フェス カンパニーXY with ラシッド・ウランダン「メビウス」[劇場と子ども7万人プロジェクト(一部)]	2022年10月27日(木)、28日(金)	演出・振付・出演：カンパニーXY 振付・コラボレーションアーティスト：ラシッド・ウランダン	目標値	2,009
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	1,450 (うち学校招待713)
6	ミニセレ 芸文フェス 第20回AAF戯曲賞受賞記念公演 「リンチ(戯曲)」	2022年11月4日(金)～6日(日)	戯曲：羽鳥ヨダ嘉郎、演出・振付・出演：余越保子、出演：垣尾優、Alain Sinandja、小松菜々子	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	214
7	NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2023年2月19日(日)	指揮：ヤクブ・フルシャ ピアノ：ピョートル・アンデルシェフスキ 管弦楽：NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	1,581
8	第22回AAF戯曲賞募集・選考	2022年5月～2023年3月	審査員：岩淵貞太、鈴木みのり、立山ひろみ、鳴海康平、羊屋白玉	目標値	100 作品
		愛知県芸術文化センターアートスペースAほか		実績値	91 作品
9	ミニセレ ダンス・セレクション2023	2023年2月11日(土・祝)	出演：nouses 『nous』、橋本ロマンス 『PAN』	目標値	142
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	124
10	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①舞台芸術インターシップ ②学生インターシップ 及びお仕事社 ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネーターセミナー	目標値	900
		愛知芸術文化センター内、オンライン※		実績値	1,151
11	アーティスト人材養成事業	通年	①合唱団養成 ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成 ④ワークショップファシリテーター等養成	目標値	150
		愛知芸術文化センター内		実績値	218(別途、試演会258)
12	ファミリー・プログラム 愛知県芸術劇場オープンハウス	2022年5月7日(土)	コンサートホール：自由見学、ガイトツア、パブリックコンサート、小ホール：参加型音楽イベント、自由見学	目標値	400
		愛知県芸術劇場コンサートホール、小ホール		実績値	1,586

13	愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室 2022 モーツァルト作曲 オペラ「バステイアンとバステイエンヌ」学校招待公演 [劇場と子ども7万人プロジェクト]	2022年6月17日(金)	出演：湯浅加奈子(ピアノ)、伊藤晴／柴田紗貴子 他 演出：太田麻衣子	目標値	700
		碧南市芸術文化ホール エメラルドホール		実績値	718
14	ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2022年8月6日(土)～9日(火)、25日(木)	①げきじょうたんけんツアー②キッズ音楽ワークショップ③キッズダンスワークショップ④ハッパママダンス	目標値	200
		愛知県芸術劇場コンサートホール、中リハーサル室		実績値	146
15	ファミリー・プログラム 海外作品「えんどうまめとおひめさま」県内巡回ツアー	2022年7月～8月	演出・振付：シリ・デイヴウィック、出演：ゲルド・イリン・ブログラント、ニス・クリスティン・フォースタル	目標値	2,000
		愛知県芸術劇場小ホール、愛知県内市町村劇場(県内ツアー)		実績値	1,140
16	ファミリー・プログラム THE オルガン NIGHT & DAY 2022	2022年8月26日(金)、27日(土)	オルガン：山口綾規 司会・うた：加藤恵利子	目標値	2,700
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	2,731
17	ファミリー・プログラム 宮沢賢治「風の又三郎」(振付：勅使川原三郎)	2022年9月3日(土)、4日(日)	演出・振付/美術/衣装/照明デザイン/音楽編集：勅使川原三郎、アーティストック・コホレーター/ダンス/朗読：佐東利穂子	目標値	1,875
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	845
18	「展覧会の絵」オルガンメモリアルコンサート学校招待公演 [劇場と子ども7万人プロジェクト]	2022年9月28日(水)	お話・オルガン：廣江理枝	目標値	1,000
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	3,012
19	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート2022」	2022年11月3日(木祝)～6日(日)	参加団体：愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他	目標値	55,000
		栄北地区一帯		実績値	74,734
20	ソーシャルインクルージョン ワークショップ	2023年1月31日(火)、2月2日(木)	講師：佐久間 新(ジャワ舞踊家)、鈴木 潤(作曲家、鍵盤プレイヤー)	目標値	400
		半田市立つくし学園(半田市児童発達支援センター)、半田市福祉文化会館		実績値	72※
21	普及啓発及び外国人・障がい者対応事業	通年	①乳幼児と保護者②入門者③コアファン④障がい者・劇場に来づらい人⑤在住外国人 各対象向けプログラムを実施	目標値	200
		愛知芸術文化センター他		実績値	312

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オルガン・アワー ～音のシャワーで心リフレッシュ～	2021年6月18日(金)	オルガン：都築由理江(愛知県芸術劇場オルガニスト)	目標値	1,041
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	845※
2	イスラエル・ガルバン「春の祭典」	2021年6月23日(水)、24日(木)	演出・振付・ダンス：イスラエル・ガルバン、ピアノ：片山柁、増田達斗 ※	目標値	1,521
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	869※
3	勅使川原三郎新作ダンス公演「羅生門」	2021年8月11日(水)	振付・演出・美術・照明・衣装・音楽構成：勅使川原三郎、アーティストック・コレクター：佐東利穂子、出演：勅使川原三郎、佐東利穂子、アルカド・ルリアゴ、笙：宮田まゆみ(録音) ※	目標値	1,075
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	302 ※
4	ナタリア・オシポワ&メリル・タンカード「Two Feet」	2021年9月10日(金)、11日(土)(中止)※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	1,917
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	-※
5	ミニセレ 芸文フェス 向井山朋子「KUMANO」	2021年10月22日(金)、23日(土)	コンセプト：向井山朋子、映像・インスタレーション・照明：向井山朋子、レニエ・ファン・ブルムレン、ピアノ：向井山朋子	目標値	195
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	176※
6	ミニセレ 芸文フェス 第19回AAF戯曲賞受賞記念公演「ねー」	2021年11月21日(日)～23日(火祝) 後日(2022.3.14～28)有料動画配信※	戯曲：小野晃太郎 演出：今井朋彦 出演：猪股俊明他	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	323※
7	芸文フェス NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2021年11月28日(日)	指揮：ファビオ・ルイージ ヴァイオリン：フランチェスカ・デゴ 管弦楽：NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	1,527※
8	バットシェバ舞踊団公演	2022年1月30日(日)(中止)※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	1,248
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	-※
9	第21回AAF戯曲賞募集・選考	2021年5月～2022年3月	審査員：岩淵貞太、鳴海康平、羊屋白玉、やなぎみわ	目標値	100作品
		愛知芸術文化センターアートスペースAほか		実績値	117作品
10	ミニセレ サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2022	2022年2月27日(日)	出演：ASUNA、伏木啓+Collaborative Artists及び公募アーティスト	目標値	100
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	131※
11	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①舞台芸術インターンシップ ②学生インターンシップ及びお仕事ナビ ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネーターセミナー	目標値	900
		愛知芸術文化センター内、オンライン※		実績値	753※

12	アーティスト人材養成事業	通年	①合唱団養成 ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成 ④ワークショップファシリテーター等養成	目標値	150
		愛知芸術文化センター内、オンライン※		実績値	113※
13	劇場と子ども7万人プロジェクト「小さな島とエヴァ」学校招待公演	2022年1月14日(金), 19日(水), (21日(金)※中止)	作: ファインガン・クルケメイヤー(テラッピン人形劇団)、ナレーター: 川上珠来、音楽: 千葉広樹、イラストレーター: 日高由美子、人形操作: ゆみだてさとこ ※	目標値	900
		西尾市文化会館、奥三河総合センター(※新城中止)		実績値	1,407※
14	ファミリー・プログラム海外作品「えんどうまめとおひめさま」県内巡回ツアー	2021年7月~8月(中止)※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	2,000
		愛知県芸術劇場小ホール、愛知県内市町村劇場(県内ツアー)		実績値	-※
15	ファミリー・プログラム宮沢賢治「風の又三郎」(振付: 勅使川原三郎)	2021年7月24日(土)、25日(日)	演出・振付・美術・衣装・照明デザイン・音楽編集: 勅使川原三郎、アーティストリック・コレクター: 佐東利穂子、出演: オデッセイダンサー11名、佐東利穂子	目標値	2,000
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	964※
16	ファミリー・プログラム/日生劇場ファミリーフェスティバル物語付きクラシックコンサート	2021年8月14日(土)	指揮: 岩村力、構成: 粟國淳、演出・構成: 眞鍋卓嗣、作曲・編曲: 加藤昌則、出演: 又吉秀樹他	目標値	1,200
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	1,091※
17	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート2021」	2021年11月3日(水祝)~7日(日)	参加団体: 愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他	目標値	200,000
		栄北地区一帯		実績値	12,735※
18	普及啓発及び外国人・障がい者対応事業	通年	①乳幼児と保護者②入門者③コアファン④障がい者・劇場に来づらい人⑤在住外国人 各対象向けプログラムを実施	目標値	200
		愛知芸術文化センター他		実績値	1,109※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミニセレ 中川賢一・野村誠ピアノ・コンサート「愛と知のメシアン!!」	2021年1月7日(木)※	出演:中川賢一(ピアニスト)、野村誠(作曲家)	目標値	150
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	81※
2	モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』 一般公演	2020年6月14日(日) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止。	目標値	330
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	—※
3	ミニセレ 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎+佐東利穂子「白痴」	2020年7月17日(金)、18日(土)、19日(日)	構成・照明・衣装・選曲:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	176※
4	ナタリア・オシポワ&メリル・タンカード「Two Feet」	2020年9月17日(木)、18日(金)、19日(土) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、公演中止。	目標値	2,538
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	—※
5	ミニセレ 芸文フェス第18回AAF戯曲賞受賞記念公演「朽ちた蔓延る」	2020年11月7日(土)、8日(日)、9日(月) 後日(2020.12.26~2021.1.17)有料動画配信※	作:山内晶、演出:篠田千明 出演:Nanang/アナント・ウィチャクソノ、益山寛司(劇団子供鉦人)、MIKI the FLOPPY(情熱のフラミンゴ)、入馬券	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	103+85 視聴(配信期間中)※
6	ミニセレ 芸文フェス 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎「調ペー笙とダンスによる」	2020年12月4日(金)、5日(土)、6日(日)	構成・照明・衣装:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子、宮田まゆみ(笙)	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	246※
7	NHK 交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	2021年1月31日(日)	指揮:鈴木優人※ 管弦楽:NHK交響楽団	目標値	1,350
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	763※
8	ミニセレ 勅使川原三郎芸術監督就任記念シリーズ 勅使川原三郎新作公演	2021年2月21日(日)、22日(月)、23日(火・祝)	構成・振付・美術・照明・衣装:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子	目標値	383
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	226※
9	ミニセレ 芸文フェスダンス・セレクション2020	2020年10月2日(金)、3日(土)	①演出:倉田翠、出演:倉田翠他6名 ②振付・出演:柿崎麻莉子	目標値	142
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	172※
10	第20回AAF戯曲賞募集・選考	2020年5月~2021年3月	審査員:白神ももこ、鳴海康平、羊屋白玉、三浦基、やなぎみわ	目標値	100 作品
		愛知芸術文化センター アートスペースA 他		実績値	117 作品
11	舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	①②アートマネジメント講座、劇場インターン、お仕事ナビ※ ③劇場職員セミナー※ ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術コーディネーターセミナー※	目標値	700
		愛知芸術文化センター内 オンライン※		実績値	779※

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
12	アーティスト人材養成事業	通年	①合唱団養成(中止)※ ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成※ ④ワークショップファシリテーター等養成※	目標値	200
		愛知芸術文化センター内 オンライン※		実績値	79※
13	(劇場と子ども7万人プロジェクト「小さな島とエヴァ」学校招待公演)※ 前年度中に中止決定のため、欠番。	—	—	目標値	3,000
		—		実績値	—
14	劇場と子ども7万人プロジェクト 愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室 2020 モーツァルト作曲 オペラ「バ스티アンとバスティエヌ」学校招待公演	2020年6月19日(金) (中止)※	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、公演中止。	目標値	700
		碧南市芸術文化ホール		実績値	—※
15	ファミリー・プログラムワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2020年7~8月	①げきじょうたんけんツアー(中止、動画配信に変更※) ②キッズダンスワークショップ(中止※) ③赤ちゃんと踊ろう(オンライン実施※)	目標値	200
		オンライン※		実績値	①1,196視聴(3月末) ③11※
16	ファミリー・プログラム体験型パフォーマンス「どうする!?アンデルセンさん!」他 ※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、内容変更。	2020年8月	演出:鳴海康平 出演:小菅紘史、夏目慎也、南波圭、白神ももこ	目標値	2,500
		愛知県芸術劇場小ホール他 県内3劇場		実績値	184※
17	ファミリー・プログラム THE オルガン NIGHT & DAY 2020	2020年7月29日(水)、 30日(木) 後日動画配信※	出演:勝山雅世(オルガン)、村本貫太郎(打楽器、DAYのみ)	目標値	2,700
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	391+1,238視聴(3月末)※
18	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート2020」	2020年10月31日(土) ~11月3日(火・休)	参加団体:愛知芸術文化センター、NHK名古屋放送局、オアシス21 他	目標値	5,000
		栄北地区一帯		実績値	57,821+1,200視聴(開催期間中)※
19	ソーシャルインクルージョンプログラム ワークショップ ※新型コロナウイルス感染症に係る渡航制限のため、内容変更。	2021年1月28日(木)~ 30日(土)	①ワークショップとは?②情報保障とは?③そもそも障がいとは?各視点から、アートとコミュニケーションを考える	目標値	600
		愛知県芸術劇場小ホール 一部オンライン参加可※		実績値	45+52(オンライン参加)※
20	普及啓発及び障がい者・外国人対応事業	通年	①乳幼児と保護者②入門者③コアファン④障がい者・劇場に来づらい人⑤在住外国人 各対象向けプログラムを実施	目標値	500
		愛知芸術文化センター他		実績値	484 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(5) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オルガン・レクチャーコンサート～オルガンの名曲でたどる J.S. バッハの生涯	2019. 5. 11	□出演者： オルガン・お話：椎名雄一郎 □曲目： J.S. バッハ：トッカータとフーガニ短調 BWV565 他	目標値	1,212
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	1,202
2	ローザス『A love supreme』	2019. 5. 17-18	□出演者・スタッフ等： 演出・振付：アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル 振付：サラバ・サンチェス 出演：カンパニー・ローザス □演目： 『A love supreme』	目標値	900
		名古屋市芸術創造センター		実績値	769
3	カーゲル「アコースティカ」	2019. 6. 1	□出演者： 足立智美（作曲家/パフォーマー）他 □曲目： マウリシオ・カーゲル：ACUSUTICA 足立智美：アコースティカですか(世界初演)	目標値	165
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	105
4	ネザーランド・ダンス・シアター（NDT）公演	2019. 6. 28-29	□出演者： ネザーランド・ダンス・シアターダンサー35名 □演目： 「Shoot the Moon」、 「Wake up Blind」 「The Statement」、 「Singulière Odyssee」	目標値	1,229
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	2,409
5	オルガン・スペシャルコンサート～ピエール・ダミアノ・ペレッティ	2019. 10. 9	□出演者： オルガン：ピエール・ダミアノ・ペレッティ ハープ：田中敦子 □曲目： ヘンデル：ハープ協奏曲 op. 4-6, HWV294 より アンダンテ・アレグロ 他	目標値	1,199
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	346
6	アルディッティ弦楽四重奏団＋小尻健太	2019. 12. 1	□出演者： 音楽演奏：アルディッティ弦楽四重奏団 振付・ダンス・演出：小尻健太 □曲目： 細川俊夫：新曲(世界初演) 西村朗：弦楽四重奏第6番〈朱雀〉 ヴォルフガング・リーム： 弦楽四重奏曲第3番〈胸裡〉、Geste zu Vedova	目標値	165
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	177
7	クリスマスはオルガンだ！2019	2019. 12. 21	□出演者： オルガニスト：近藤岳 カウンターテナー：中嶋俊晴 □曲目： 聖歌：「久しく待ちにし」他	目標値	1,083
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	2,016
8	NHK 交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）	2020. 1. 26	□出演者： 指揮：ファビオ・ルイーージ ソプラノ：クリスティーネ・オポライス 管弦楽：NHK交響楽団 □曲目： ウェーバー：歌劇『オイリアンテ』序曲 R. シュトラウス：4つの最後の歌、 交響詩「英雄の生涯」作品4	目標値	1,340
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	1,564
9	ON VIEW : Panorama	2020. 2. 7-9	□出演者・スタッフ等： 振付・映像：スー・ヒーリー（オーストラリア） ダンス：湯浅永麻、浅井信好（日本）、ムイ・チャック・イン、ジョセフ・リー（香港）、ナリーナ・ウエイト、ベンジャミン・ハンコック（オーストラリア）	目標値	405
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	216

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
10	勅使川原三郎ダンス・コンサート【公演中止】	2020. 3. 12	□出演者・スタッフ等： 演出・振付・照明・美術・ダンス：勅使川原三郎 ダンス：佐東利穂子 ヴァイオリン演奏：庄司紗矢香 □演目： 「三つ折りの夜」	目標値	975
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	—
11	ダンス・セレクション	2019. 10. 19	□出演者・演目： 鈴木竜：『AFTER RUST』 横山彰乃 / Ial banshees：『ペッピライカで雪を待つ』 渡邊尚（頭と口）×ギヨーム・マルティネ（Defracto）：『妖怪ケマメ』	目標値	284
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	114
12	サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2020	2020. 2. 23	□出演者： ゲストアーティスト 正直、ミニスキュル・シングス（立川貴一十吉田アミ）と大谷能生 公募アーティスト CORONA、みあいっこ、日々《変容の対象》 アンサンブル	目標値	64
		愛知県芸術劇場小ホール		実績値	91
13	第19回AAF戯曲賞募集・選考	2019. 5-2020. 3	□審査員： 三浦基、鳴海康平、やなぎみわ、白神ももこ	目標値	100 作品
		愛知県芸術劇場アートスペースAほか		実績値	136 作品
14	愛知県芸術劇場 2019年度舞台芸術スタッフ人材養成ラボ	通年	□プログラム： ①舞台芸術インターンシップ ②学生インターンシップ、舞台芸術お仕事ナビ ③劇場職員セミナー ④舞台芸術創造セミナー ⑤舞台芸術ワークショップファシリテーター&コーディネーターセミナー	目標値	700
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	672
15	アーティスト人材養成事業	通年	□プログラム： ①合唱団養成 ②オルガニスト養成 ③振付家・ダンサー養成 ④ワークショップファシリテーター養成	目標値	263
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	180
16	愛知芸術文化センター リニューアルオープン記念 愛知県芸術劇場オープンハウス&ダンス・ワークショップ	2020. 5. 3	□プログラム： ①劇場案内ツアー ②ダンスワークショップ ③子ども劇場スタッフ体験 ④オープンハウス	目標値	1,000
		愛知県芸術劇場大ホール		実績値	829
17	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	2019. 7-8	□プログラム： ①げきじょうたんけんツアー ②キッズ音楽ワークショップ ③赤ちゃんと踊ろう	目標値	200
		愛知県芸術劇場大ホールほか		実績値	272
18	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム『L.O.O.』県内ツアー	2019. 7-8	□出演・製作：ポンテン・ピエ □県内ツアー地：県内8市町村	目標値	2,500
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	563 (+ツアー1923)
19	THE オルガン NIGHT & DAY 2019	2019. 8. 28-29	□出演者： オルガン：都築由理江(当劇場オルガニスト)	目標値	3,636
		愛知県芸術劇場コンサートホール		実績値	3,022
20	ソーシャルインクルージョンプログラム パフォーマンスワークショップ	2020. 1. 21-25	□講師： Oily Cart（エリー・グリフィッツ、マックス・ラインハルド、ロビン・スチュワード）他 □プログラム 1. 21-24：ワークショップ&ショーイング（対象 音楽家、パフォーマー） 1. 25：シンポジウム（対象 アーティストや舞台芸術・福祉・教育などの現場で活動する人等）	目標値	210
		愛知県芸術劇場リハーサル室ほか		実績値	38

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
21	半田市オペラ鑑賞教室学校招待公演／愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室2019「レクチャー&オペラ上演」～60分でわかる！オペラのススメ	2019. 6. 6	□出演者・スタッフ等： 演出・構成・日本語訳：宮本益光 出演者：宮本益光、針生美智子、三枝宏次 □演目： 「奥様女中」	目標値	2,000
		半田市福祉文化会館		実績値	2,143
22	栄北まちなか展開連携事業「久屋ぐるっとアート」	2019. 11. 1-4	□参加団体： 愛知芸術文化センター、NHK 名古屋放送局、オアシス21 他 □当劇場プログラム： 「あそびプログラム」、防災人形劇「さんびきのこぶた危機一髪！」	目標値	5,000
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	244,326
23	普及啓発事業	通年	□プログラム： ①乳幼児と保護者のためのプログラム ②入門者のためのプログラム ③より深く楽しみたいコアファンを増やすためのプログラム ④障がい者及び劇場に来づらい人のためのプログラム ⑤在住外国人のためのプログラム	目標値	500
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	537
24	バリアフリー対応	通年	□内容： ①聴覚障がい者対応： ヒアリングループの設置、手話通訳、字幕設置 ②視覚障がい者対応： 点字翻訳パンフレット、公演前説明会	目標値	—
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	—
25	多言語対応	通年	□内容： 英語、日英併記チラシ等の作成	目標値	—
		愛知県芸術劇場ほか		実績値	—

(6) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	愛知県芸術劇場ミニセレ 島地保武×環 ROY 『ありか』 再演	平成30年6月23日(土)、24日(日)	出演及び演出：島地保武、環 ROY 振付：島地保武／音楽：環 ROY 平成28年度、平成29年度と各地で公演を重ねてきた本作品を、凱旋公演として愛知県芸術劇場にて再演。出演は、世界的な振付家のウィリアム・フォーサイス率いるフォーサイスカンパニーで活躍していた舞踊家の島地保武と、ラップ・アーティストとして、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションや NHK 教育テレビでも活躍する異色のラッパー環 ROY。2年間の共演を踏まえて、改めて作品を見直しつつ、より先鋭的でかつ質の高い作品の凱旋公演を実現した。	目標値	300
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	275
2	愛知芸文フェス／愛知県芸術劇場ミニセレ 第17回AAF戯曲賞受賞記念公演『シティⅢ』	平成30年10月26日(金)、27日(土)、28日(日)	作家・作品名：カゲヤマ気象台『シティⅢ』（第17回AAF戯曲賞大賞受賞）演出家：振子びじん 第17回AAF戯曲賞の大賞受賞作品、カゲヤマ気象台・作『シティⅢ』を、劇場プロデュースによって製作及び上演した。公演製作にあたり、劇場職員が制作面・舞台技術面で作品創作過程に一から関わり、アーティストと一緒に劇場主体で作品を創作した。戯曲の審査から公演のプロデュースまでを一貫して愛知県芸術劇場が主体となって行うことで、文化の発信拠点として地域の拠点劇場の役割を果たした。	目標値	400
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	288
3	愛知芸文フェス イスラエル・ガルバン『黄金時代』	平成30年11月2日(金)、3日(土・祝)	演出・振付：ペドロ・ロメオ出演：イスラエル・ガルバン、ダビ・ラゴス(カンテ)、アルフレド・ラゴス(ギター) 現代的なフラメンコの中でも、最高峰のアーティストとされる、イスラエル・ガルバン。フラメンコは、ダンスだけではなく、ギターやカンテ(歌)といった音楽的な要素の存在も非常に大きい。今回の来日では、ダンス(バイレ)と歌(カンテ)と演奏(ギター)によるフラメンコの最小単位によるイスラエル・ガルバンの代表作のひとつ「黄金時代」を上演した。	目標値	1000
		名古屋市芸術創造センター		実績値	600
4	愛知芸文フェス モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』	平成30年11月16日(金)、17日(土)	演出：太田麻衣子指揮：角田鋼亮出演：伊藤晴／柴田紗貴子 ほか管弦楽：愛知県室内オーケストラ若い男女の恋物語を題材とした、モーツァルトが12歳の時に作曲された最初期の演目『バスティアンとバスティエンヌ』を上演。単なる上演ではなく、公演前半に上演演目と関連のある作品による構成を加えて、独自のスタイルによる2部構成で公演全体をアレンジメントすることで、演目そのものにも、より膨らみのある意味を付加した内容とした。	目標値	400
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	505
5	愛知芸文フェス クリスマスはオルガンだ！ 2018	平成30年12月21日(金)、22日(土)	都築由理江(オルガン)、服部孝也(トランペット)クリスマス時期のコンサートであることを意識させることで興味を喚起させ、クリスマスの雰囲気のあるプログラムで実施した。演奏者自身によるトークを	目標値	3000

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
		愛知県芸術劇場 コンサートホール	織り込み、聴衆に演奏者へ親近感をもってもらうと共に、パイプオルガンについての話題も盛り込み、楽器についての関心も高めてもらった。演奏を聴くことに加えて、大型スクリーンに演奏風景をリアルタイムで投影することにより、演奏を「見る」楽しみを上乘せた。	実績値	2290
6	バレンタイン・オルガンコンサート～ダニエル・ザレツキー	平成 31 年 2 月 8 日 (金)	オルガン：ダニエル・ザレツキー（ロシア）バレンタインのコンサートであることを意識しつつも、オルガン・ソロでない現実が難しい、楽器の性能を十分に活かしたプログラムとした。大きな意味での「愛」をキーワードとしたプログラムとすることで、バレンタインの雰囲気作りを心掛けた。	目標値	1400
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1212
7	NHK 交響楽団定期演奏会 (愛知県芸術劇場シリーズ)	平成 31 年 2 月 24 日 (日)	指揮：パーヴォ・ヤルヴィ（N響首席指揮者）管弦楽：NHK交響楽団演奏曲目：ストラヴィンスキー・プログラム交響的幻想曲「花火」他 NHK交響楽団の定期演奏会のうち、サントリーホールで開催される定期演奏会のBプログラムを、そのままの出演者・曲目により愛知県芸術劇場コンサートホールで開催する。どちらのホールも、ステージを取り巻く形状の客席であるだけでなく、ロマン派以降のオーケストラ作品において、挿入楽器として編成に含まれる事のあるシンフォニックタイプのパイプオルガンをホール正面に備える音響面で優れた大規模のホールであるため、ホールの機能を活かしつつ、共通したプログラムを組むことが可能である。	目標値	1600
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1685
8	声明 四箇法要「花びらは散っても花は散らない」附 宮内康乃作曲《海霧讃歎》	平成 31 年 3 月 2 日 (土)	出演：声明の会・千年の聲（天台・真言両宗の僧侶 30名）構成・演出：田村博巳 演目：日本最古の声明曲「四箇法要（しかほうよう）」他古典声明と新作声明から構成されるコンサート。日本音楽の源流の一つであり、キリスト教のグレゴリオ聖歌と並ぶ宗教音楽である 「声明」は、その音楽性からアカペラの音楽としても非常に魅力的である。男性僧侶たちの鍛え上げた声により自由リズムで唱えられ、倍音が重なり、濃密な音響空間を体感できた。	目標値	1200
		愛知県芸術劇場 コンサートホール		実績値	1205
9	ダンス・コンサート Manuel Legris 『Stars in Blue』 BALLET & MUSIC	平成 31 年 3 月 17 日 (日)	演出・出演：マニユエル・ルグリ（ウィーン国立バレエ団芸術監督）出演：オルガ・スミルノワ（ホリショイ・バレエ・リジナル）他 演奏：三浦文彰（ヴァイオリン）他振付：パトリック・ド・バナ平成 27 年度にパリ・オペラ座エトワール・ダンサーのエルヴ	目標値	1000

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		実績値	目標値
		愛知県芸術劇場 コンサートホール	エ・モローがNYのカーネギーホールからスタートした「バレエと音楽の饗宴」を、日本向けに再演出して、ツアー公演を行った。当館でも「月夜に煌めくエトワール」と題して、ヴァイオリン、ピアノとバレエダンサー3名の計5名によりコンサートホールでダンスと音楽のタベを開催。今回は、大反響となったこの公演の成果を継承しつつ座長をマニュエル・ルグリに依頼しさらに発展させた公演を企画制作した。	実績値	1086
10	愛知県芸術劇場ミニセレダ ンス・セレクション	平成30年10月6日 (土) 8日(月・祝)	出演：≪10月6日≫+81、康本雅子、ブッシュマン ≪10月8日≫白井剛、小暮香帆、オトリヨセ企画	目標値	290
		愛知県芸術劇場小ホール	6組のダンサーが30分程度の作品を連続上演する公演。過去に上演され、独自の作風を持つ振付家・ダンサーによる、話題を呼んだダンス作品を、トリプル・ビルの形で一挙に紹介した。	実績値	258
11	愛知県芸術劇場ミニセ レサウンドパフォーマンス・プ ラットフォーム2019	平成31年2月9日 (土)、11日(月・祝)	出演：公募出演者(大久保雅基、杉野晋平、dobby/ 仮説、Affine、signal compose、大所帯非楽器アンサンブル POLY!)、ゲストアーティスト(夏の大△、藤田陽介、電力音楽、Hair Stylistics)	目標値	450
		愛知県芸術劇場小ホール	音を用いたパフォーマンス作品は、いわゆる現代音楽にとどまらず、ダンスのように身体性を重視したもの、演劇のように言葉に着目したもの、1960年代の「イベント」「アクション」「パフォーマンス」など美術系のものや映像を伴うものまで、非常に多様である。こうした現状に着目し、音を核にしているという点だけに依拠してそのほかあらゆる境界を越えて、ジャンルにとらわれずチャレンジフルで研鑽を積む若いアーティストや、中堅からベテランのパフォーマーまで、その作品を探し出し、上演した。	実績値	183
12	第18回AAF戯曲賞(募集・選考・審査会)	平成30年6月1日 (金)：募集開始/7月31日 (火)：募集締め切り/ 10月~11月：審査員による1次・2次選考会/ 平成 31年1月6日(日)：最終審査(公開審査)	審査員：篠田千明(演出家・イベントター) / 鳴海康平(第七劇場主宰・演出家) / 羊屋白玉(指輪ホテル主催、演出家・劇作家・俳優) / 三浦基(地点代表・演出家) / やなぎみわ(演出家) 募集及び審査全国から戯曲を募集し、2回の予備審査を経て、公開審査会によりAAF戯曲賞大賞・特別賞を選定した。	目標値	100 作品
		愛知県芸術劇場小ホール 他	公開審査会審査員5名と応募者が同席する会場で議論のうえ、大賞及び特別賞を決定した。	実績値	109 作品 + 75 人

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	アーティスト人材養成事業	通年	(1) 合唱団養成講師:大島義彰(合唱指揮) (2) オルガニスト養成講師:都築由理江(当劇場オルガニスト) (3) 振付家・ダンサー養成 ①岡登志子ダンスワークショップ in 愛知 ②フォーサイスのメソッドに基づくコンテンポラリー・ダンス・ワークショップ/ありか再演関連事業講師:島地保武 ③ダンス・セレクション関連『踊る』『語る』『集う』講師:Opto(湯浅永麻、小尻健太) ④NDT メソッドに基づくコンテンポラリー・ダンス・ワークショップ 講師:Opto(湯浅永麻/小尻健太) ⑤マニュエル・ルグリ トークイベント/ダンス・コンサート関連事業講師:マニュエル・ルグリ、シルヴィア・アッツオーニ (4)ワークショップリーダー養成プログラム講師:吉野さつき(ワークショップコーディネーター)、倉品淳子(俳優・演出家)	目標値	50
		愛知芸術文化センターア ートスペース A 他		実績値	263
14	愛知県芸術劇場 平成 30年度舞台芸術人材養成ラボ	通年	(1) 実践実習プログラム:舞台芸術インターンシップ(企画制作・広報コース、舞台技術コース)対象:舞台芸術に関わる仕事に就きたいと考えている学生や、舞台芸術に関わる仕事を始めた若手制作者 (2) 職場体験プログラム:学生インターンシップ及び舞台芸術お仕事ナビ対象:芸術大学等でアートマネジメントを学ぶ学生や、一般の大学に在籍し芸術文化の振興に関心のある学生 (3) 技能習熟プログラム:劇場職員セミナー(企画制作・広報コース、舞台技術・劇場運営コース)対象:公立劇場や市町村の文化振興担当者のうち、概ね4年以上の経験者 (4) 創造制作プログラム:舞台芸術創造セミナー対象:制作者や芸術文化コーディネーター等、舞台芸術に関わる者 (5) 普及啓発人材プログラム:ワークショップ等コーディネーターセミナー ワorkshopリーダー等が地域でワークショップを実施し活躍するための基礎となる知識・技能が得られる講座	目標値	250
		愛知県芸術劇場 小ホー ル他		実績値	914
15	劇場と子ども7万人プロジェクト 舞台芸術鑑賞教室『寿歌』(小中学生学校招待公演)	≪知立公演≫平成30年6月13日(水)、14日(木)、15日(金) ≪小牧公演≫平成30年6月22日(金)	作:北村想/演出:宮城聰出演:奥野晃士、春日井一平、たきいみき (SPAC俳優)愛知県芸術劇場とSPAC-静岡県舞台芸術センターが共同企画として創作した現代演劇『寿歌』の学校招待公演を行った。事前に学校を通じて作品に関する資料を配布し、上演後に演出家や出演者との交流時間を設ける。鑑賞だけでなく総合的に舞台芸術やアーティストに興味関心・親しみを持ってもらえるように工夫した。	目標値	1500
		パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)、小牧市民会館		実績値	1665

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
16	劇場と子ども7万人プロジェクト 舞台芸術鑑賞教室『あrika』(小中学生学校招待公演)	平成30年6月26日(火)、28日(木)、29日(金)	出演及び演出：島地保武、環 ROY 振付：島地保武／音楽：環 ROY 出演は、世界的な振付家のウィリアム・フォーサイス率いるフォーサイスカンパニーで活躍していた舞踊家の島地保武。及び、ラップ・アーティストとして、異ジャンルのアーティストとのコラボレーションやNHK教育テレビでも活躍する異色のラッパー環 ROY。先鋭的かつ質の高い作品として、県内小中学生に鑑賞してもらった。事前に学校を通じて作品に関する資料を配布し、上演後に出演者との交流時間を設けた。鑑賞だけでなく総合的に舞台芸術やアーティストに興味関心・親しみを持ってもらえるように工夫した。	目標値	750
		愛知県芸術劇場 小ホール		実績値	528
17	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム 『小さな島とエヴァ』公演&県内市町村ツアー	<p>《栄公演》平成30年8月4日(土)、5日(日)《幸田公演》平成30年8月8日(水)《豊川公演》平成30年8月10日(金)《稲沢公演》平成30年8月12日(日)《千種公演》平成30年8月15日(水)《碧南公演》平成30年8月15日(水)《小牧公演》平成30年8月19日(日)《知立公演》平成30年8月22日(水)</p> <p>愛知県芸術劇場小ホール、幸田町民会館、豊川市御津文化会館、名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市市民会館)、名古屋市千種文化小劇場、碧南市芸術文化ホール、小牧市東部市民センター、パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)</p>	<p>演出：Sam Routledge／作：Finegan Kruckemeyer デザイン：Jonathon Oxlade／作曲・演奏：Dean Stevenson 照明：Nicholas Higgins プロダクションマネージャー：Andrew MacDonald／人形遣い：Felicity Horsley (以上、タスマニアン・パペット・シアター) 出演(ナレーター役)：川上珠来(名古屋在住)オーストラリアのタスマニアを拠点に活動するタスマニアン・パペット・シアターを招聘し、代表作『小さな島とエヴァ』を、地元在住の日本人俳優を起用した日本バージョンとしてリクリエーションした。</p> <p>愛知県芸術劇場小ホールを皮切りに、愛知県内でツアーを行い、多くの子どもたちや保護者の方に観劇体験やアーティストとのふれあいを提供した。</p>	目標値	1000
				実績値	1116
18	愛知県芸術劇場ファミリー・プログラム ワークショップ&げきじょうたんけんツアー	<p>(1)平成30年8月1日(水)(2)①平成30年8月17日(金)、18日(土)②平成30年8月17日(金)、18日(土)、19日(日)(3)①平成30年8月23日(木)、24日(金)②平成30年8月24日(金)、25日(土)</p> <p>(1)愛知県芸術劇場小ホール、(2)(3)愛知芸術文化センターアートスペースA</p>	<p>(1)げきじょうたんけんツアー 講師：劇場職員 他 初めて劇場を訪れるような小学校低学年の子供たちを対象にした楽しい探検ツアー (2)ダンスワークショップ ①オリジナルなダンスをつくろう！ 講師：古家優里(振付家・ダンサー) 小学校高学年の子供たちを対象にした、ダンス体験ワークショップ ②赤ちゃんと踊ろう 講師：古家優里(振付家・ダンサー) 乳幼児及びその保護者を対象にしたダンス体験ワークショップ (3)えんげき de コミュニケーション！ 講師：振子びじん、佐々木文美 他 小学校高学年の子供たちを対象にした、演劇体験ワークショップ</p>	目標値	200
				実績値	265

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
19	普及啓発事業	通年	<p>(1)乳幼児と保護者のためのプログラム 未就学児連れで参加できるコンサートやダンスワークショップを開催した。</p> <p>(2)入門者のためのプログラム 舞台芸術に触れてみたい人のために、初心者を対象としたワークショップや、お茶を片手に気軽に参加できるトークやレクチャーなどを開催した。</p> <p>(3)より深く楽しみたいコアファンを増やすためのプログラム</p> <p>鑑賞公演や創作公演に関連した内容を、より深く体験し、広く深い知識をもって鑑賞できるようになるための実演付レクチャーや講座やワークショップを行った。</p> <p>(4)障害者及び劇場に来づらい人のためのプログラム 視覚や聴覚の障害者が公演を楽しめるように事前に特別な解説を行ったり、サポートを実施した。また劇場を訪れる機会の少ない児童養護施設児童等を対象に招待公演を行った。</p> <p>(5)在住外国人のためのプログラム 親子のダンスワークショップを外国人住民との交流プログラムとして実施した。</p>	目標値	800
		半田市福祉文化会館 他		実績値	1122
20	ご近所連携 栄北エリア連携事業『久屋ぐるっとアート』	平成 30 年 11 月 2 日(金) ～4 日(日)	<p>《イスラエル・ガルバンとフラメンコを踊ろう》 フラメンコの名手、イスラエル・ガルバンの指導に基づき、全くの初めての人も含めてみんなでフラメンコの一場面を踊るワークショップを開催し、実際に踊った。</p> <p>《栄まちじゅう音楽広場》 愛知県吹奏楽連盟の協力を得て、多数の吹奏楽団が参加・演奏する野外コンサート。例年開催されているこの催しを共同で開催することにより、より多様な参加者を得た。</p> <p>《フォーラムシアター2018》 地元を拠点に活動するダンスグループや劇団によるミニ公演を開催した。</p> <p>《あそびシアター by AAC》 アートの要素を含めながら親子で参加できて楽しめるワークショップを開催した。</p>	目標値	5000
		愛知芸術文化センター、愛知県芸術劇場、オアシス21、名古屋テレビ塔、NHK名古屋放送局、セントラルパーク 他 栄北地区一帯		実績値	46000
21	バリアフリー対応	通年	<p>(1)聴覚障がい者対応 ①赤外線補聴システムの使用 ②字幕設置 ③ポータブル字幕使用</p> <p>(2)視覚障がい者対応 ①触る舞台美術模型を使用した開演前舞台説明 ②開演前の説明会 ③点字プログラムの作成</p> <p>(3)障がい者向け対応周知チラシの作成 (4)視覚障がい者への開演前の説明会のブレ実施と対応訓練</p>	目標値	—
		名古屋市芸術創造センター 他		実績値	—

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
22	多言語対応	通年	(1)ファミリー・プログラムの多言語版のチラシの作成 (2)コンサートホール公演（クリスマス、バレンタイン、N響、聲明、ダンスコンサート）まとめチラシの英語版の作成 (3)「聲明」公演における英語字幕の投影 (4)「ダンス・コンサート スターズ・イン・ブルー」公演における英語資料の作成 (5)ワークショップ『赤ちゃんと一緒にダンス!』の実施	目標値	—
		愛知県芸術劇場コンサートホール 他		実績値	—

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

当劇場は、「劇場による地域文化向上プロジェクト」の採択を受け、H30 から R4 年度まで5年間、この6つのプロジェクトを推進すべく総合的な事業展開を行なった。

本プロジェクトは、当劇場のミッション、ビジョンや地域の特性、施設の特色等と有機的に連関し、プロジェクトごとにアウトカム、目標・指標を定め、その達成状況を把握し進行管理を行ってきた。各プロジェクトとミッション等との適合及びそれに基づく具体的な事業の実施状況例は下記のとおり。

なお、R1 年度末から R4 年度まで新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響により、多くの事業で中止等を余儀なくされ、特に海外アーティストの招聘は渡航制限により多くがかなわなかった。しかし、そうした中でも地域、ひいては我が国の芸術文化の灯を絶やさぬよう、プロジェクトの趣旨にのっとり積極的に取組みに努め、6つのプロジェクト全てについて、コロナによる一部事業の中止等を除き概ね当初の予定通り事業を進めることができた。

①発信力強化プロジェクト

～プロデュース作品を製作し国内外で上演することで創造発信～

当劇場のミッション「つくる：国内外に芸術文化を創造・発信する劇場」及びビジョン「芸術文化のプレゼンスを高める劇場を目指す」に基づき、アウトカム「『創造する劇場』として内外に認知度向上」を目指して、下記のような事業を行なった。

- ・ジャンルを問わず数多くのプロデュース作品を製作し、他劇場を含めて上演を行なった。
 - ・H30 年度 元パリ・オペラ座エトワールで当時ウィーン国立バレエ団芸術監督であったマニュエル・ルグリによる「Stars in Blue」を当劇場の他国内3館で公演実施。
 - ・H30 年度小ホールの客席と舞台の近さと空間を活かした演劇的な独自構成のオペラ「バスティアンとバスティエヌ」を製作初演し R4 年度同ホール及び県内市町村劇場での学校招待公演として再演した。
- ・R2 年度からは世界的なダンサー・振付家・演出家である勅使川原三郎が当劇場の初代芸術監督に就任し、国際的な発信力のある舞台作品を製作・上演した。
 - ・R1 年度 オーストラリア・香港との国際共同製作「ON VIEW」を国内で上演した後、海外の劇場等でもオンライン配信等により様々な形で発信（予定された海外公演はコロナで中止）。
 - ・R1 年度 ダンスとラップによる「ありか」(H28 年度製作)をフランス・パリにて上演（初演以降累計 10 会場、23 公演実施）。
 - ・R2 年度 芸術監督就任記念シリーズ3公演を実施。
 - ・R3 年度 国際的なバレエダンサーと共に愛知で創作した大ホールにおける新作公演、勅使川原三郎版『羅生門』を上演した。
 - ・R4 年度 コンサートホールで「ダンス・コンサート」シリーズとして『天上の庭』を創作・上演した。

②鑑賞プロジェクト

～海外招聘ダンス・オペラ・オルガン・現代音楽・演劇等多様な舞台芸術の鑑賞の場を提供～

当劇場のミッション「みる：優れた舞台芸術の鑑賞の場を提供する劇場」及びビジョン「多種多様な人が劇場に集い、親しまれる劇場を目指す」に基づき、アウトカム「多種多様な表現活動と鑑賞機会を提供し『劇場のある生活』を提案」を目指して、下記のような事業を行なった。

- ・地方における世界トップクラスのアーティストの鑑賞機会として、国内主要劇場等と共同制作・招聘することで、海外ダンスカンパニーと交渉の上、招聘公演を行なった。
 - ・H30・R3 年度 コンテンポラリー・フラメンコの最高峰イスラエル・ガルバンによる公演を実施。
 - ・R1 年度 アンケートで最も上演の機会を望む声が多かった NDT (ネザーランド・ダンス・シアター)、ローザスの公演を実施。
- ・H30～R4 年度 地域の高いニーズに応え我が国を代表するオーケストラ NHK 交響楽団の定期演奏会をコロナ禍期間含め毎年開催。比較的若い客層のファンを増やした。
- ・R4 年度 リゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、ロームシアター京都、荘銀タクト鶴岡と連携し、コンテンポラリーダンスと和太鼓による Noism×鼓童『鬼』を上演した。
- ・当劇場の特色である日本最大級のオルガンを活用したコンサートは、対象者や目的を変えて（初心者～リピーター等）あらゆる方にその魅力を堪能していただけるよう工夫し実施した。また、他劇場と共同により著名な海外オルガニストの招聘も実施した。

③普及教育プロジェクト

～子どもから大人まであらゆる人が舞台芸術を体験し豊かな感性を育む観客層を育成～

当劇場のミッション「ひろげる：舞台芸術のすそ野を広げる劇場」及びビジョン「舞台芸術により豊かな感性を育み、次世代への継承・発展を図る劇場を目指す」に基づき、アウトカム「一生に一度は劇場に足を運ぶ機会を提供」を目指して、下記のような事業を行なった。ただし、コロナの影響により特に学校招待公演については学校側の判断での中止もあった。

- ・県内の小中学生1学年に相当する7万人を劇場に招待する取組みである「劇場と子ども7万人プロジェクト」は、コロナにより全公演中止となったR2年度を除いて毎年当劇場主催で2～3作品上演。併せて、県内18市町村とパートナー宣言を締結し、目標の達成に向け取り組んだ。
- ・R3年度「小さな島とエヴァ（日本人版）」の県内市町村劇場での学校招待公演では、山間部・離島の学校や軽度の障がいのある子ども、海外にルーツを持つ子どもも鑑賞する等、多様な子ども達の鑑賞機会を作った。
- ・家族で楽しめる「ファミリー・プログラム」としては、0歳から入場できるオルガンのワンコインコンサート「THEオルガンDAY」や毎年すぐに定員に達する「げきじょうたんけんツアー」等を継続実施。コロナ禍期間も自宅から楽しめるよう動画制作・公演配信も行なった。R4年度からはこれまでの夏休み期間に加えGW期間にも同プログラムを実施することにより、特に子育て世代の来場拡大を推進した。
- ・アートによるソーシャルインクルージョンをテーマとした取組みを、R1年度から継続実施した。R1年度障がいのある子どもも楽しめるパフォーマンス活動を行なうイギリスの劇団オイリー・カートによるワークショップ、シンポジウムを実施した。R2年度予定した同劇団による再招聘は延期も含めてコロナにより実施できなかったが、R2年度には公演に向けた機運醸成のためワークショップ、R3年度にはオンラインゼミを実施。R4年度は市町村劇場にて日本人アーティストによる知的障がい児及び知的障がい者を対象とした代替プログラムを実施した。

④連携・交流プロジェクト

～劇場職員を始め舞台芸術に携わるスタッフ、アーティストや市町村と連携交流を図り地域の文化力向上～
 当劇場のミッション「つなぐ・そだてる：地域全体の文化力を高める劇場」及びビジョン「市町村劇場等とともに、広域的な文化振興を図る劇場を目指す」に基づき、アウトカム「芸術文化を生業にできる人材と環境づくり」、「劇場運営の専門性の向上」、「圏域全体の文化力の向上」を目指して、下記のような事業を行なった。なお、コロナ禍でもオンラインによる講座等の配信も積極的に行なった。

- ・「舞台芸術スタッフ人材養成ラボ」では全国から参加者の集まる劇場職員向けのセミナーや未来を担う学生向けのインターン等を体系立てて毎年継続実施、多数の参加を得た。
- ・「アーティスト人材養成」では勅使川原芸術監督による地域の若手ダンサー養成により「風の又三郎」公演を実現。またコンサートホールのパイプオルガンを活用してのオルガニスト養成講座を継続する中でR3年度からは通年コースを設定しプログラムを充実させた。
- ・毎年実施している「AAF戯曲賞」、概ね2年に1回実施している「ダンス・セレクション」や「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム」は、その受賞や出演をきっかけとしてその後活躍していくアーティストを輩出した。

- ・コロナにより中止となったR3年度を除き毎年、「ファミリー・プログラム」の一環として、海外小規模カンパニーの県内市町村巡回公演を実施した。

年度	作品名	招聘国	連携市町村劇場数
H30	ちいさな島とエヴァ	オーストラリア	7劇場
R1	Loo	スペイン	8劇場
R2	「どうする!?アンデルセンさん！」	— (創作)	3劇場
R3	中止		
R4	「えんどうまめとおひめさま」	ノルウェー	6劇場

⑤社会課題対応プロジェクト

～芸術の力で都市・福祉・多文化共生等の社会課題の解決につなげ地域に貢献～
 当劇場のミッション「こたえる：地域の課題に応える劇場」及びビジョン「地域の課題に積極的に対応、地域に貢献する劇場を目指す」に基づき、アウトカム「地域の賑わい向上」「社会参加の機会の拡充」を目指して、下記のような事業を行なった。

- ・H30年度に立ち上げた、都市の課題にアートの力で応えるイベント「久屋ぐるっとアート」は地域のイベントとして定着が進み、企画の見直しを進めながら毎年継続実施。
- ・行政の多文化共生部門や地域のNPOとも連携し、外国人住民向けのダンスワークショップ（H30年度～）や、共生をテーマにした演劇ワークショップ（R1年度～、R2年度は中止）を継続実施した。

⑥「雇用と財源」安定化プロジェクト

～ミッション実現の基盤となる人材・財源を確保～
 当劇場のミッション「ささえる：適正な劇場マネジメント」及びビジョン「自主財源を確保し使命の実現につなげる劇場を目指す」、「職員が安心してその能力を発揮できる劇場を目指す」に基づき、アウトカム「雇用と財源の安定」を目指して、下記のような取組みを行なった。

- ・愛知県芸術劇場メンバーズの会員数増加によりチケット販売拡大へつなげるとともに、自主財源拡充に向けた「賛助会員制度」をR3年度から本格的に開始した（R4年度会員数は15法人）。
- ・高い専門性を擁する劇場職員を他劇場等に講師・委員等として多数派遣するとともに、外部研修受講により職員の能力向上を図った。

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

①文化的意義（高い芸術性を待つ作品の創造発信により、我が国及び地域の文化・芸術水準向上）

- ・H28年度に当劇場のプロデュースにより製作したダンスとラップを組み合わせた先端的な作品「ありか」について、H29年度の県内外の巡回公演を経て、H30年度以降下記展開により愛知から海外への創造発信を行ない、我が国の文化・芸術水準の向上に資することができた。
 - ・H30年度 小ホールでの凱旋公演を学校招待公演も含めて実施。
 - ・R1年度 フランス・パリを始め国内外の3か所で再演。（初演以降累計10会場、23公演を実施。）
 - ・R2年度 前年度のTPAM（国際舞台芸術ミーティング in 横浜）での上演を観た関係者からのオファーによりドイツ・イタリアのフェスティバルでの上演が予定されたが、コロナにより中止。
 - ・R3年度 国際交流基金のプロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」にて日本を代表する優れた作品として選定され、多言語字幕により全世界に向けて映像配信を行ない、約7.5万回視聴された。
- ・勅使川原芸術監督の独自の高い芸術性と地域の文化的資源である数多くのバレエ団やダンサー達を掛け合わせた事業として、「風の又三郎」公演が実現。勅使川原監督による創造は、出演ダンサーはもちろん、鑑賞した地域の関係者達にとっても大きな刺激となり、愛知における文化・芸術水準の向上に資することができた。
 - ・R1年度 勅使川原監督と地元バレエ団との懇談会を実施し、意見交換。
 - ・R2年度 オーディションにより地域ゆかりの出演ダンサー11名を選出、稽古を開始。
 - ・R3年度 「風の又三郎」初演実施。その後、再演に向けたオーディション、稽古を実施。
 - ・R4年度 続投7名に新規ダンサーを加え再演。完成度が増し優れた作品となった。

②社会的意義（劇場の社会的役割を認識、芸術の力で課題に応える事業により、地域社会に貢献）

- ・アートによるソーシャルインクルージョンをテーマとした取組みをR1年度から継続実施。下記展開により、地域社会に貢献した。
 - ・R1年度 障がいのある子どもも楽しめるパフォーマンス活動を行なうイギリスの劇団オイリー・カートを招聘。音楽家やパフォーマーを対象としたワークショップや地域のNPOへのアウトリーチ、福祉・教育現場で活動する人も対象としたシンポジウムを実施。
 - ・R2年度 前年度の取組みを展開させ、パフォーマンスづくり（公演）を行なう予定であったが、劇団の来日がかかわらず中止（延期）。代替企画として、アートとコミュニケーションに関してさまざまな視点から考えるワークショップを実施。
 - ・R3年度 前年度までの取組みをさらに深化させるオンラインゼミを実施。「声」及び「触る」をテーマに各ジャンルの専門家・アーティストをゲストに迎え、年間を通じて考える機会を作った。
 - ・R4年度 オイリー・カートの来日公演は実現できなかったが、R2年度にもワークショップ講師を務めた日本人アーティストにより、市町村劇場にて知的障がい児及び知的障がい者を対象とした代替プログラムを実施した。
- ・当地域の特性として、ブラジルを始めとした外国人住民数が多い（全国2位）。劇場として多文化共生社会の実現に協力していくため、愛知県多文化共生室等の行政機関や地域のNPO等と連携し下記の取組みをH30年度から継続実施。普段劇場に来ることの少ない方が舞台芸術に触れるきっかけを作った。
 - ・H30年度から毎年、愛知県の進める「多文化子育てサロン」事業に企画協力し講師を派遣。ダンスワークショップ「赤ちゃんも踊ろう」を行ない、外国人親子及び日本人親子の交流の一助となった。
 - ・R1年度は愛知県の「多文化共生タウンミーティング」に、R3・4年度は名古屋国際センターの「地域の国際化セミナー」「絵本のひろば」に企画協力して講師を派遣。演劇を手法としたワークショップを通し、異なる背景を持つ者とのコミュニケーションについて考える機会を提供した。

③経済的意義（地域に根差した事業展開により、経済・生活を活性化）

- ・当劇場が立地する栄地区の経済的地盤沈下という都市の課題にアートの力で対応するため、近隣商業施設等との連携によるイベント「久屋ぐるっとアート」をH30年度以降継続実施。毎年約25の参加団体と多くの参加者が得られ、地域の賑わいづくりに貢献した。特にコロナ禍においては、十分な対策を講じ事業実施することで、イベント等を躊躇していた各団体の背中を押し、地域活性化活動への参画再開を促すとともに、観客からも、閉じこもりがちであった中、外出する良いきっかけとなった等の前向きな反応が得られた。R2年度からはリニューアルオープンしたHisaya-odori Park（久屋大通公園）も参加団体に加わり、共に当地域の活性化に寄与した。
- ・労働人口が多いこと及び市街中心に位置するため来場が容易であることを活かし、会社帰りの来場しやすい時間帯に安価なチケット価格（500円のTHEオルガンNIGHT、1,000円のオルガン・アワー）で気軽に芸術を楽しむ機会を提供し、ワークライフバランスの推進に資することができた。
- ・コロナ禍の自主事業実施に関しては、配信や代替事業の実施、出演者・スタッフ等への適切なキャンセル料の支払いを行う方針をとり、舞台芸術に係る地域経済を衰退させないよう努めた。

(2) 有効性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価						
目標を達成し、アウトカムが発現したか。						
プロジェクトに対するアウトカム及びそれを測る目標・指標として掲げた内容と、実績データは下表のとおり。						
	H29 年度	H30年度	H31・R1年 度	R2年度	R3年度	R4年度
アウトカム① 「創造する劇場」として内外に認知度向上 目標 プロデュース作品制作と県内外での上演						
愛知県芸術劇場外で上演される当劇場プロデュース作品公演数 (指標 4公演)	8	28	7	12	9	11
アウトカム② 多種多様な表現活動と鑑賞機会を提供し「劇場のある生活」を提案 目標 芸術文化鑑賞者の増加、多種多様なイベントに対応できるサービス環境の向上						
大ホール公演入場者率 (ダンス・オペラ) (指標 70%)	65.2	改修中	64.2	84.5	59.0	58.5
年3回以上来場者率 (指標 30%)	29.7	35.6	27.8	52.2	52.0	52.5
利用者満足度調査平均点 (指標 3.7点(4点満点))	3.66	3.59	3.74	3.83	3.82	3.84
アウトカム③ 一生に一度は劇場に足を運ぶ機会を提供 目標 「劇場と子ども7万人プロジェクト」の実施、若者の来館者の増加						
劇場と子ども7万人プロジェクト参加者数 (指標 7万人)	2,278	2,193	4,051	4,415	10,838	21,897
U-25来場者率 (指標 30%)	23.5	22.1	34.1	13.4	30.9	30.2
アウトカム④ 芸術文化を生業にできる人材と環境づくり、劇場運営の専門性の向上、圏域全体の文化力の向上 目標 アートマネジメントに係る研修の開催、劇場職員の運営対応力向上のための研修の開催、市町村劇場巡回公演やワークショップ等の実施						
舞台芸術人材養成ラボ参加者数 (指標 ~R1 800人、R2~ 900人)	711	934	672	779	753	1,151
市町村との連携事業数 (指標 8事業)	8	8	7	6	5	8
アウトカム⑤ 地域の賑わい向上、社会参加の機会の拡充 目標 地域と協働したパフォーミングアーツイベントの実施、ファミリー・プログラムの拡充						
栄北地区パフォーミングアーツイベント開催 (指標 1回)	0	1	1	1	1	1
ファミリー・プログラム開催 (指標 2期)	1	1	1	1	1	2
アウトカム⑥ 雇用と財源の安定化 目標 自主財源の拡充、安定観客層の確保、職員の対応力向上						
チケット購入団体数 (指標 18団体)	7	8	17	14	12	19
愛知県芸術劇場メンバーズ会員数 (指標 20,000人)	6,805	8,591	11,556	12,560	16,119	19,987
外部研修受講者数 (指標 ~H30 80人、R1~ 90人日)	52	35	221人日	173人日	184人日	207人日
アウトカム① コロナ禍で複数のプロデュース作品が公演中止となる厳しい状況であったが、コンスタントに上演を継続し、最終年度には指標を大きく上回ることができた。主な公演は以下のとおり。 ・H30年度 「ありか」(H28年度初演) 6公演、「寿歌 (ほぎうた)」(H29年度初演) 14公演 他 ・R1年度 「ありか」(H28年度初演) フランス・パリ公演始め5公演、「レクチャー&オペラ上演 (奥様女中)」(H29年度初演) 2公演 ・R2年度 「どうする!? アンデルセンさん!」(R2年度初演) 12公演 ・R3年度 「小さな島とエヴァ」(H30年度初演・R3年度改編) 4公演 ・R4年度 「バスティアンとバティスエヌ」(H30年度初演) 2公演 →全指標達成。確実に「創造する劇場」として県内外での認知度は向上し、アウトカムの発現が認められる。						

アウトカム②

- ・大ホール公演入場者率（ダンス・オペラ）については、H30 年度はホール改修中、R2～はコロナによる定員制限のある中での数値であることから単純比較は難しいが、R3・4 年度についてはコロナ禍の影響もあり、結果的に指標達成には至らなかった。
 - ・年3回以上来場者率については積極的な事業展開を行なうことでコロナ禍においても指標を継続して上回ることができた。これは、プロジェクトの実施により「劇場のある生活」がより多くの人に定着したことを示している。
 - ・利用者満足度調査については、H31（R1）年度より継続して指標を上回っている。調査では感染症対策の設問も設けることにより、コロナ禍においても鑑賞機会の提供を継続できるようデータ収集を行なった。さらには、データ分析を専門家に依頼し、より詳しい評価を行なうこともできた。多種多様なイベントに対応できるサービス環境は十二分に向上したといえる。
- 5年間を通じ質の高いサービスのもと多種多様な表現に出会える場として愛知県芸術劇場のファン層を拡大させ、「劇場のある生活」の提案を、一定程度進めることができた。R2 年度に全指標を達成したものの、アウトカムの持続はできなかった。

アウトカム③

- ・「劇場と子ども7万人プロジェクト」参加者数については、当劇場主催として学校招待公演用のレパトリーの蓄積が進んだことにより、コロナの影響で0となったR2年度以外は毎年2～3作品上演するとともに、R2年度からは市町村への働きかけによって実現したパートナー宣言によって市町村が主催する事業とも連動させて達成を目指した。また、コロナ禍でも子ども達の鑑賞の場を確保すべく「小さな島とエヴァ」（R3年度）では海外カンパニー来日不能を受け、舞台美術のみ海外から運搬しオンラインで技術指示等を受けながら、日本人アーティスト版に改編製作し、劇場としては積極的に対応した。結果的には指標を達成できなかったが5年間を通じ参加者を10倍に広げることができた。
 - ・U25 来場者率（未来の担い手育成に資する「ファミリー・プログラム」、「ミニセレ」シリーズ）については、R2年度は夏の「ファミリー・プログラム」公演がコロナによる事業中止のため測定できなかったことで低い数値となったが、R1・3・4年度は指標を上回ることができた。
- 全ての指標達成には至らなかったが、「一生に一度は劇場に足を運んでもらう」ための機会づくりはプロジェクトの実施により大きく前進したといえる。

アウトカム④

- ・舞台芸術人材養成ラボ参加者数については、H30年度に934名と指標を大きく上回る数値が実現したことから指標の上方修正を行なった。その後コロナ禍により指標を下回ることもあったが、劇場職員セミナーを始めとする各種講座でオンライン配信を積極的に行ない、参加者数を維持することにより、最終年度には目標を大きく上回ることができた。
 - ・市町村との連携事業数については、コロナ禍の中でも継続して積極的に働きかけた結果、最終年度には指標を達成することができた。
- 全指標を達成。アウトカムの発現が認められる。

アウトカム⑤

- ・栄北地区パフォーミングアーツイベントについては、H30年度から実施している「久屋ぐるっとアート」を毎年継続して実施することができ、指標を達成した。実施にあたっては、R2～R4年度においてはJAPAN LIVE YELL project 久屋プロジェクトをプログラムの一部として取り入れることで、イベントやアーティストの多彩さ、ボリューム感を出すことができた。その盛り上がりから年々参加を希望する団体も増え、地域の賑わい向上に大きく寄与したといえる。
 - ・「ファミリー・プログラム」の開催については、R3年度まではこれまでどおり夏の1期開催であったが、R4年度にGW期間においても家族で楽しむことができるコンサートホールでの「オープンハウス」イベント（自由見学、ガイドツアー、ミニコンサートを実施。）と小ホールでの関連参加型イベント（人材養成ラボの講座から生まれた企画）を実施することで、プログラムを拡充し、指標を達成することができた。「ファミリー・プログラム」については、この5年間を通じて新規来場者率が向上する等初めて劇場へ足を運ぶ機会づくりに資する形となっているとともに、今後子どもも含めたさらなる来場者拡大が見込める。
- 全指標達成。芸術文化による地域の賑わいづくりやあらゆる人が社会参加する機会づくりを、着実に進められ、アウトカムの発現が認められる。

アウトカム⑥

- ・**チケット購入団体数**については、コロナ禍においては企業団体への訪問が難しいこともあり伸び悩んでいたが、R3 年度から本格的に募集を開始した賛助会員制度とも合わせて粘り強く働きかけを行った結果、R4 年度には**指標を達成することができた。**
 - ・**愛知県芸術劇場メンバーズ会員数**については、特に R2 年度のコロナ禍で増加率が低く、R4 年度には大幅に増加したものの、**目標達成にはわずかに至らなかった。**
 - ・**外部研修受講者数**については、R1 年度から指標の測定単位を人日とし、複数日に渡る研修の参加状況を適正に反映するよう改めたところ、**各年度において指標を大きく上回ることができた。**特にコロナ禍では対面研修に代えてオンライン研修の受講も含めた Off-JT を推進したことで、**戦略的に職員の能力向上のための機会を作ることができた。**劇場の活動を支える職員のスキル向上については**一定の成果は認められる**
- 全指標達成にはわずかに至らなかったものの、アウトカムの発現は目前といえる。

(3) 効率性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

プロジェクト採択時にたてた5年間の計画工程表に基づき、H30からR4年度まで5年間、各プロジェクト・事業に応じて、必要な人材・時間・事業費を投入して事業実施（アウトプット）した。

事業期間中、コロナの影響で事業中止・延期等があり一部計画どおりとならない部分もあったが、概ね計画どおり実行した。各プロジェクトの進捗状況は下記のとおり。

①発信力強化プロジェクト ～コロナの影響での事業中止があったものの計画を上回って達成～

- ・芸術監督の設置・プロデュース作品の製作と上演は、最も力を入れて取り組み、コロナ禍においても指標を下回ることなく実施し、特にプロデュース作品の海外公演については、計画では最終年度に達成予定であったが、これより早くR1年度に「ありか」パリ公演を実現することができた。

②鑑賞プロジェクト ～コロナの影響での事業中止を除き計画通り達成～

- ・海外招聘ダンス公演はコロナの影響で0となったR2年度以外は計画に沿って毎年コンスタントに（まだ招聘が難しかったR3年度においても各所と調整により特別許可を得ることによって）実施できた。
- ・オペラ、オルガン、「ミニセレ」シリーズといった多種多様な作品の上演はコロナ禍にあっても概ね計画どおり毎年実施できた。実施にあたっては、R2年度以外は毎年1回以上民間事業者との連携によって制作・広報面の相乗効果や経費削減を図った。

③普及教育プロジェクト ～一部項目で計画を下回ったがそれを除き達成～

- ・「劇場と子ども7万人プロジェクト」は、当劇場主催公演をコロナの影響で0となったR2年度以外は毎年2～3作品上演するとともに、R2年度からは市町村とのパートナー宣言によって達成を目指したが、計画に掲げたR4年度までの「1年間で7万人」は実現できなかった。
- ・「ファミリー・プログラム」は、R3年度まではコロナ禍においても毎年夏の1期開催を継続し、R4年度からはGW時期を加えた2期開催（夏・冬から季節は変更）とし、計画どおり実現した。
- ・対象別の普及教育プログラムについては、①乳幼児と保護者、②入門者、③コアファン、④障がい者等劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5方向を対象とし、オンライン開催によって全国から参加を得る等プログラムを一層充実させ、計画通り毎年継続実施できた。

④連携・交流プロジェクト ～コロナの影響での事業中止を除き計画通り達成～

- ・県内市町村巡回公演はコロナの影響で中止となったR3年度以外、計画に沿って毎年継続実施できた。とりわけ、コロナ禍前のR1年度の「L00」では当劇場含め9館23公演を実現した。
- ・舞台芸術人材養成ラボも、コロナ禍にあってはリアル・オンラインを併用する形で、計画に沿って毎年各種プログラムを継続実施した。

⑤社会課題対応プロジェクト ～コロナ禍でも計画を上回って達成～

- ・地域との連携イベントとしては、「久屋ぐるっとアート」を計画どおり毎年継続実施した。
- ・行政・関係団体との連携としては、行政・NPO等への積極的な働き掛けを進め、R2年度から予定していた多文化共生・福祉関係との事業連携が計画より早くH30年度から毎年継続実施できた。

⑥「雇用と財源」安定化プロジェクト ～計画通り達成見込～

- ・人材関係では、県派遣職員のプロパー化は計画どおり順次進むとともに、外部研修、プロデューサーらが国内外の公演・見本市等を視察する企画調査（コロナ禍では海外視察は実施できず）、AAPPAC（アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟）等の国際会議参加（コロナ禍ではオンラインで出席）はコロナの影響を除けば計画どおり実施できた。
- ・財源関係では、劇場メンバーズ会員はコロナ禍で事業中止が最も多かったR2年度は伸びが鈍かったが、その他の期間では順調に推移し、結果的に計画に掲げたR4年度目標である2万人にわずかに至らなかったものの概ね達成できた。また、賛助会員制度はR3年度から本格的に募集を開始することとなり、地域の企業団体を中心に計画どおり関係性の構築が進んだ。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

当初計画との整合に関しては、小・中規模事業では、要望時と決算時の間で20%以上の乖離を生じた事業が複数生じた（公演内容のわずかな変更や出演料の交渉、舞台スタッフの配置、広告宣伝の状況等による少額の増減であっても、事業費自体が小さいため割合として乖離が大きくなる）ものの、事業費が1千万円以上の大規模事業で乖離が20%以上生じた事業は、H30年度2事業、R4年度の3事業以外はコロナの影響によるものであった。各年度の該当事業は下記のとおり。

・H30年度

「アーティスト人材養成事業」：ワークショップの成果としてショーイングを予定したが、実施しない形に内容

を変更したため事業費減。

「久屋ぐるっとアート」：プログラムの一つであるダンス公演関連イベントの経費について、本体公演に経費の一部を組み込むことが可能となったため事業費減。

▶R1 年度

「勅使川原三郎ダンス・コンサート」：コロナによる中止のため事業費減。

▶R2 年度

「Two Feet」：コロナによる中止のため事業費減。

「朽ちた蔓延る」、「N 響定期公演」：コロナにより外国人アーティストが来日できなかったため事業費減。

「調べ」・「勅使川原三郎新作公演」：コロナによりスタッフ配置を最小限としたため事業費減。

「ソーシャルインクルージョンプログラム」：コロナにより海外カンパニー招聘公演からワークショップに内容を変更したため事業費減。

▶R3 年度

「Two Feet」、「バットシェバ舞踊団公演」：コロナによる中止のため事業費減。

「ねー」：オーディションで決定した出演者に県外者が多く、コロナ対策もあり旅費が増加したため事業費増。

「風の又三郎」：コロナの影響もあり出演者・スタッフ数等全体の規模を縮小したため事業費減。

▶R4 年度

「Noism×鼓童「鬼」」：共同制作館増による費用折半による事業費減。

「天上の庭」：海外招聘アーティストの渡航費減

「メビウス」：助成金獲得による制作委託費減

「Jamboree」：コロナ禍の影響でカンパニーの来日が不可能になったため、代替事業をとして日本人アーティストによるプログラムに縮小変更したことによる事業費減。

一方、**事業収入**（入場料、委託料）**及び有料入場者数**については、特にR1 年度末からのコロナ禍においては、定員制限（R2 年度は 50%、R3 年度は一部座席で 1 席空けのディスタンスシートを設けた）や県内市町村巡回公演の縮小により、目標に達しない事業も多く発生した。こうした中でも、下記の事業（一例）については、目標を上回る、あるいは定員制限内ではあるが完売することができた。

なお、コロナ禍においてはいくつかの事業でオンライン配信等を行なうことにより、劇場に来なくても舞台芸術に触れられるような対応を行ない、収入には直接つながらないものの想定以上の参加者数を得ることができた（例：「げきじょうたんけんツアー」は R2・3 年度、「AAF 戯曲賞受賞記念公演」及び「劇場職員セミナー」については R2・3・4 年度いずれも配信を実施）。

▶H30 年度

「バスティアンとバスティエンヌ」：大胆な台本構成で初心者にも鑑賞しやすい作品が話題を呼び、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

「Stars in Blue」：世界トップクラスのバレエダンサーと一流の音楽家による、コンサートホールでの「ダンス・コンサート」という独自シリーズとして当劇場委嘱振付作品も含めたプログラムは高い注目を集め、バレエ・音楽双方の多くのファンが来場し、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

▶R1 年度

「NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）」公演：学校への働きかけにより有料での学生団体鑑賞が実現し、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

「クリスマスはオルガンだ！」：前年度非常に好評であったため 1 公演追加し、事業収入・入場者数とも目標を上回った。

▶R2 年度

「ダンス・セレクション」：コロナ禍でもチケット販売状況が好調であったため 1 公演追加し、入場者数が目標を上回った。

「芸術監督就任記念シリーズ」3 公演：定員制限した範囲内ではあるが予定販売枚数完売となり、芸術監督への注目度の高さがうかがえた。

▶R3 年度

「N 響定期公演」：コロナ禍でも著名な外国人指揮者・ソリストの招聘が実現したこともあり、事業収入・入場者数とも目標を上回った。コロナ禍においても地域の観客の高いニーズがうかがえた。

▶R4 年度

「オルガン NIGHT & DAY」：コロナ禍においても映像配信するなど工夫しながら継続した結果、夏のファミリープログラムとして県民に定着し、事業収入・入場者数ともに目標を上回った。

(4) 創造性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

当劇場の自主事業の柱である2つのフェスティバル(「ファミリー・プログラム」、「愛知芸文フェス」と「ミニセレ」)シリーズにより様々な創造性豊かな事業展開を行なった。

R2年度から、芸術監督として、世界的な振付家・ダンサー・演出家の勅使川原三郎氏が就任し、創造性を高める様々な取り組みを実施した。また事業の組み立てにあたっては、芸術監督・劇場アドバイザー及び(副)館長以下※複数の専任プロデューサーが議論を重ね、独創性、新規性、先導性を高めた。

①独創性(当劇場独自の創造力による他に類を見ない先駆的・実験的な活動)

(1) 勅使川原芸術監督と地域のダンサーが創り上げた「風の又三郎」公演(R3年度・R4年度)

勅使川原監督独自の高い芸術性と地域の文化的資源を掛け合わせ、R3年度及び令和4年度に、ダンス『風の又三郎』公演を、アーティスト人材養成の一環として且つ「ファミリー・プログラム」として実施した。出演した地域ゆかりのダンサー(令和3年度、令和4年度ともに11名。7名が2年継続)を公募し稽古を経て作品を創作。この経験は彼らを大きく成長させた。勅使川原監督により、宮沢賢治のなじみある物語が非常に美しく舞台化され、観客は大人から子どもまで、驚きをもって鑑賞した。足を踏み鳴らすアンサンブル等で見られた律動的な群舞、アーティストック・コラボレーターの佐東利穂子による原作の朗読、緻密な照明による光と影で表現された校舎や刻々変化する時間感覚等、当劇場大ホールを存分に生かした創造がなされ、勅使川原監督の手腕がいかに発揮された優れた作品となった。

コンテンツラリー・ダンスに力を入れてきた当劇場ならではの他に類を見ない先駆的・実験的な挑戦で独創性があると考える。

(2) 「ミニセレ」シリーズを始めとした先駆的・実験的作品の上演

ブラックボックスと呼ばれる小ホールの特徴を活かして様々な領域の同時代的な作品を上演する「ミニセレ」シリーズほか、独創性の高いジャンル横断・ボーダーレスな作品上演を毎年継続実施した。

(ア) AAF 戯曲賞受賞記念公演及び受賞作家への支援継続

当劇場が主催するAAF 戯曲賞は、「上演を前提とした戯曲賞」として海外からの応募もある等、広く注目を集めており、R1年度には応募が136作品と過去最高を記録した。この大賞受賞作品は劇場プロデュースでの上演を実施する。H30年度に第17回受賞作「シティⅢ」(作:カゲヤマ气象台)、R2年度に第18回受賞作「朽ちた蔓延る」(作:山内晶)、R3年度に第19回受賞作「ねー」(作:小野晃太郎)、R4年度に第20回「リンチ(戯曲)」(作:羽鳥ヨダ嘉郎)を「ミニセレ」シリーズの中でプロデュース、上演し、いずれも若手作家に戯曲の上演の機会を提供するとともに、作家・演出家・俳優・スタッフ・観客にとって幅広い出会いの場を提供した。また、新人発掘にとどまらず、戯曲賞受賞者のその後の活動にも注視し、愛知での公演を製作支援する等息の長い取り組みを行なっている(例:第16回受賞作家・額田大志率いる「ヌトミック」がH30・R3年度当劇場と共催にて愛知公演実施)。

(イ) 「声明」(H30年度)

宗教儀式というだけでなく高い音楽性を備えた「声明」の公演を、「声明の会・千年の聲」の出演により実施した。構成を、古典声明と新作声明(東日本大震災を契機に創られた現代声明)によるコンサートとして、宗教的要素を残しつつも、当劇場コンサートホールにあわせた照明等の荘厳な空間演出を加えたシアターピース(舞台のみならず客席内へも演奏者が移動し演技する)の形で実施した。仏教音楽の域を越え、多くの観客層の関心をひくボーダーレスな公演とすることができた。また実施にあたってはテレビ局事業部と連携し、制作・広報面でのノウハウの共有を図った。

(ウ) 「KUMANO」(R3年度)

オランダ在住のピアニスト・美術家・アートディレクターの向井山朋子による、映像インスタレーションと音楽の新作コラボレーション作品「KUMANO」をR3年度にアーティスト自身の財団他との共同製作により上演した。本作品は、向井山氏の故郷・和歌山県熊野を題材に自身で撮影した映像やプライベートの写真、熊野を題材にした曼荼羅等を、スクリーン、半透明の布やピアノそのものに投影する等、極私的な視点で表現され、微細にわたって高い質の音・照明・映像による新しい形の舞台ができた。

(3) プロデュース作品の製作・上演

ジャンルを問わず独創的なプロデュース作品を、地域の特性を踏まえ、また地元出身アーティストを起用して製作し、他劇場を含めて上演を行なった。

(ア) 「Stars in Blue」(H30年度)

H30年度に、元パリ・オペラ座エトワールで当時ウィーン国立バレエ団芸術監督であったマニュエル・ルグ

りと愛知県安城市出身のピアニスト・田村響他の共演による「Stars in Blue」を、ダンス・音楽双方のファンを取り込みながらコンサートホールの新しい使い方を提案する「ダンス・コンサート」シリーズとしてプロデュース上演した。バレエ教室の大変多い当地域であるが当劇場以外では公演数が少なく、「ダンス公演なら愛知県芸術劇場」とのニーズが極めて高い中、当劇場委嘱振付作品も上演するなど、当劇場にしかできない芸術性の高い作品上演が行なえた。また本作品は、当劇場の他に国内3館での巡回公演を行ない、愛知県芸術劇場のプレゼンスを高めることができた。

(イ) オペラ「バステリアンとバスティエンヌ」(H30年度創作初演、R4年度再演)

H30年度に、幅広い演目の鑑賞機会の提供とオペラの普及という観点を踏まえ、事業予算・チケット単価ともに高額となる大規模公演ではなく、小ホールという劇場空間を活かした、演劇的な独自構成のオペラ「バステリアンとバスティエンヌ」をプロデュース上演した。当地域はオペラ界はじめ音楽界に国際的なアーティストを輩出しており、角田鋼亮(指揮)、伊藤晴(ソプラノ)、柴田紗貴子(ソプラノ)、愛知室内オーケストラ他、地元の優れた人材を起用し、オペラファンのみならず幅広い年齢層の初心者も楽しめる良質な作品を創造した。さらにR4年度には(R2年度の予定がコロナで延期)、当劇場小ホール及び県内市町村劇場での学校招待公演として再演し、劇場のレパートリー作品とすることができた。

(4) オルガン(年間通じた公演、専属のオルガニスト、オルガニスト養成講座)

大規模改修におけるオーバーホールを経て、日本最大級のオルガンを活用した各種事業を実施した。H29年度までは年1~2回であったオルガン・コンサートを、H30年度からは年4回以上(R3年度からは年5回)、対象者や目的を変え、子ども、初心者からリピーターまであらゆる方にオルガンの魅力を堪能していただいた。実施にあたっては、専属のオルガニスト・都築由理江が演奏や企画・運営に加えオルガンのメンテナンス等全方向から当劇場のオルガンに関するサポートを行なう体制をとった。

また当オルガニストは、オルガニスト養成講座の講師も務め、H30年度から講座を開始しR2年度までは夏の短期コースを、R3年度からは短期コースに加えて通年コースを受講者からの高い要望に応じて実施、またその成果を披露する試演会も実施した。受講者アンケートからも講座に対する高い満足度が確認でき、ホールのオルガンを活用し未来への種まきを行なうことができた。

②新規性(新たな局面を切り開く先駆的な活動)

(1) 海外アーティストによる先駆的なダンス作品の上演

当劇場の柱である大規模な海外招聘ダンス公演として、国内の他劇場等と連携しながら公演を実施した。いずれも、現代のダンスシーンをリードする気鋭のダンサー達による先駆的な取り組みであり、鑑賞者や評論家から高い評価を得た。

(ア) イスラエル・ガルバン「黄金時代」(H30年度)、「春の祭典」(R3年度)

イスラエル・ガルバンは、フラメンコ界では以前から大変有名なダンサーであったが、日本のコンテンポラリー・ダンス界における実質的なデビューはあいちトリエンナーレ2016(当劇場の複数プロデューサーが舞台公演の企画・制作に携わった)であった。そのネットワークを継承し、当劇場でH30年度に代表作のひとつ「黄金時代」を、R3年度に当時の最新作「春の祭典」を上演した。H30年度は彩の国さいたま芸術劇場と共同招聘、また大ホール改修工事のため会場を名古屋市芸術創造センター(連携協定を締結する名古屋市文化振興事業団が管轄)で上演し、また地域イベント「久屋ぐるっとアート」と連携し屋外でフラメンコを踊るイベントを開催するなど、先駆的な表現に広く触れてもらうための取り組みも行なった。R3年度はDance Base Yokohamaと共同招聘し、「ダンス・コンサート」シリーズとして実施した。コロナ禍の渡航制限で海外のピアニストの来日が不能となり、若手日本人ピアニスを起用し音楽構成も変更してベテランの海外ダンサーと共演する稀有な機会を創った。ガルバンの来日手続きはかなり難航したが、粘り強く準備・調整を行ない奇跡的に公演が実現、大きな話題となった。

(イ) NDT(ネザーランド・ダンス・シアター)公演(R1年度)

世界で高い人気を誇る、現代作品をレパートリーとするダンスカンパニー、NDT(ネザーランド・ダンス・シアター)の13年ぶりの日本公演を、R1年度にNDT横浜実行委員会との共同招聘により実現した。上演プログラムはこの日本公演独自のものであり、バラエティに富んだ4つの作品が上演され、ダンスの多様な面を見ることができた。また、2公演中1公演で学校団体鑑賞を行い、中高生たちが世界トップレベルの先駆的な表現に触れる貴重な機会となり、普及教育にも資することができた。

(ウ) 国際共同製作プロジェクト「ON VIEW」(H30~R1年度)

映像作家・振付家のスー・ヒーリー(オーストラリア)による、映像を通してダンスを探求するダンス・プロジェクト「ON VIEW」を、香港・日本(愛知・横浜)・オーストラリアとの共同製作により実施した。H30年度は名古屋市内各所でダンスの映像撮影が行われたが当劇場では普及啓発事業としてシンポジウムを実施。R1年度に香港・オーストラリアから振付家らが来日し撮影した映像を使った新作ダンス公演を創作し、横浜・赤レンガ倉庫及び当劇場にて世界初演を行なった。また公演と合わせて、映像インスタレーション展示をアー

トスペース（催事室）において実施し、愛知県芸術劇場と愛知県美術館が共存する複合施設にふさわしい、ジャンルを横断した先駆的な取組みとなった。なおR2年度以降、香港・オーストラリアでの公演が予定されていたがコロナ禍により断念、オンラインを含む多様な形で作品が発表され、R4年第23回香港ダンスアワードで6つの賞を獲得した。当劇場は、ダンスの最先端の表現技法を追求した本プロジェクトに共同製作館として携わり、国際的に知名度を高めた。

(2) 芸術文化の力を活用して社会の新たな局面を切り開く取組み

当劇場では、普及啓発事業として①乳幼児と保護者、②入門者、③コアファン、④障がい者等劇場に来づらい人、⑤在住外国人の5方向を対象とした体系的な取組みを継続して行なってきた。この中で特に、新たな芸術文化の活用方法として社会課題の解決に取り組んだプログラムを実施した。

(ア) 子育て支援の取組み

乳幼児のいる家庭は社会的に孤立しやすく芸術文化に触れる機会が減ってしまうことが多い中、当劇場では小さな子どもも保護者も楽しめるプログラムを用意した。ダンスカンパニー「プロジェクト大山」によるワークショップ「赤ちゃんと踊ろう」は、毎年「ファミリー・プログラム」として実施するとともに、多文化共生プログラムとも連携させ、外国人親子向けのイベントでも恒例のプログラムとなった（コロナ禍においてはオンラインで開催）。親子が気軽に芸術文化に触れられるようプログラムを工夫するとともに、社会参加する機会を作ることができた。

(イ) 障がいのある人や劇場に来づらい人に向けた取組み

地域の障がい者団体（名古屋市身体障害者福祉連合会、名古屋難聴者・中途失聴者支援協会、名古屋ライトハウス等）と連携し、自主事業公演において様々な鑑賞サポートを実施してきた。具体的には、聴覚障がい者向け対応としてヒアリンググループの設置（H30年度「黄金時代」他）、字幕（R3年度「ねー」他）、手話通訳（R1年度「L00」他）、音声読み上げチラシ（R3年度「アラジン」他）、視覚障がい者向け対応として点字プログラム（R2年度「THE オルガン NIGHT」他）、開演前説明会（R1年度「オルガンスペシャルコンサート」他）、触れる舞台美術模型（H30年度「寿歌」）等を実施。また、職員向けに視覚障がい者対応研修も定期的実施することで対応力向上を図った。

加えて、アートによるソーシャルインクルージョン（社会包摂）をテーマとした取組みもR1年度から開始し、以降NPO等と連携して継続実施。R1年度はイギリスの劇団オイリー・カートを招聘し、ワークショップ、シンポジウムを行ない、続くR2年度にはアートとコミュニケーションに関してさまざまな視点から考えるワークショップを、R3年度は専門家・アーティストをゲストに迎えてさらに考えを深化させるオンラインゼミを通年で行なった。このように連続した展開の中で、教育・福祉の現場において芸術文化を用いて課題を解決することについて考える場を提供できた。

(ウ) 外国人住民に向けた取組み

外国人住民の多い愛知県において当劇場では、自主事業公演へのアクセシビリティ向上のため、多言語チラシの作成（英語、ポルトガル語、やさしい日本語）や、YouTubeでの配信動画に英語の翻訳字幕を付ける対応等を実施した。

加えて、H30年度からは行政の多文化共生部門やNPOとも連携した外国人住民向けのダンスワークショップや、共生をテーマにした演劇ワークショップを継続実施。芸術文化を用いることで、言語や文化の違い等を越えた交流・共感そして相互理解につながられた。

③先導性（我が国の芸術水準向上の直接的な牽引力となる活動）

(1) 芸術監督就任を契機に愛知からトップレベルの芸術文化を発信（R2年度～）

R2年度から初代芸術監督に就任した勅使川原監督は、初年度に芸術監督就任記念シリーズの3公演を小ホールの「ミニセレ」シリーズとして行なった。R2.7月の「白痴」はドストエフスキーの同名小説から着想を得たダンス作品で、国内外で上演がされ出色の傑作と評価されている作品。芸術監督就任後初めての公演として、図らずもコロナによる休館明け最初の自主事業公演となる等、当劇場にとって象徴的な公演となった。また公演と合わせてアートスペース（催事室）で開催した同氏のドローイング作品展示は、複合施設を活かして勅使川原監督のダンス以外の多彩なアーティストとしての側面を見せることができた。続く12月の第2弾「調べ—笙とダンスによる」は国際的な笙奏者・宮田まゆみとのコレボレーション作品、第3弾「ペレアスとメリザンド—デュエット版—」はドビュッシーのオペラを題材とした新作公演を上演、3作品全てコロナ禍で定員制限をせざるを得なかったが完売となり高い注目を集めるとともに、それぞれ題材や趣向の異なるプログラムにより勅使川原監督の様々な表現を内外に紹介することができた。

R3年度には大ホールにおける新作公演、勅使川原三郎版「羅生門」を実施。本作品はハンプルク・バレエ団プリンシパルのアレクサンドル・リアブコを迎え、芥川龍之介の同名小説を題材に、音楽は「調べ」に引き続き笙奏者の宮田まゆみが参加（録音）した。コロナ禍のため稽古を一部リモートで行うなど工夫をし、当劇場の大ホールの空間を活かし照明や美術などが融合したスケールの大きな作品を創造できた。

R4年度はコンサートホールにて「ダンス・コンサート」シリーズとして、フィンランドより若手チェリストを迎えてライブミュージック&ダンス「天上の庭」を上演した。巨大な幕によりコンサートホールに闇を作り、優れた響きを活かした音楽的な作品を創作した。

このように国際的に活躍する勅使川原監督による、芸術性の高い公演を次々と上演することにより、愛知から我が国の芸術文化レベルを牽引する活動を行なえた。

(2) 圏域の芸術水準底上げの役割を果たす先導的な取組み

県内、そして圏域の拠点劇場として、地域の文化芸術に関わる人材や、未来を担う子ども達の育成も行なった。

(ア) 舞台芸術スタッフ人材の養成

当劇場は圏域の拠点劇場として、劇場職員、制作者・舞台技術者、地域の芸術文化コーディネーター、さらに舞台芸術事業に関わろうとする新しい人材の養成に向け、5つのプログラムにより体系的なスタッフ人材養成を行なった。特に、全国から関係者が集まり交流の場としても機能する「劇場職員セミナー」は、愛知県、名古屋市及び名古屋市文化振興事業団との共催で、外部講師を招くだけでなく劇場職員自らが各地の事例をもとに講座を行ない、共に日々の問題に悩み解決していく実践的な内容が高い評価を得ている。R2年度からはコロナ禍においてオンライン登壇・配信を行ない例年並みの参加者を得た。また、H30年度から開始した「ファシリテーター&コーディネーター養成事業」は舞台芸術とその受け手をつなぐ役割を担う人材を養成するものだが、この継続実施により受講生が主体となって、R4年度のオープンハウスの関連イベントを実施する等、成果が実を結びつつある。これらの取組みにより、圏域全体での舞台芸術の振興につなげることができた。

(イ) 「ファミリー・プログラム」の県内巡回公演

愛知県における拠点劇場としての役割も担う当劇場は、「ファミリー・プログラム」において、市町村が単独では招聘の難しい海外カンパニー作品の県内巡回公演を、名古屋市文化振興事業団と技術連携を行ないながら毎年実施した（コロナによりR2年度は代替企画実施、R3年度は中止）。R2年度はカンパニー来日不能を受け代替企画として、地元のアーティストやこれまでの事業で関わってきたパフォーマーと共に、当初実施予定であったアンデルセンの作品に関連した「どうする!?アンデルセンさん!」を劇場プロデュースで急遽新製作した。コロナ対策を作品に盛り込んだ内容は親子が安心して楽しめるよう工夫され、急遽ながら調整可能となった3劇場での上演が実現、コロナ禍においても県内をリードする役割を果たせた。

(ウ) 市町村との連携による「劇場と子ども7万人プロジェクト」の推進

県内の小中学生1学年に相当する7万人を劇場に招待する取組みである「劇場と子ども7万人プロジェクト」は、県内市町村との連携により進めており、実施会場は当劇場と各市町村の劇場に分かれる。当劇場での実施としては、SPAC（静岡県舞台芸術センター）との共同企画「寿歌」、日生劇場と共催したニッセイ名作オペラシリーズ、来日ダンスカンパニーの公演、そして当劇場プロデュース作品等のレパトリー等から招待公演を実施してきた。コロナ禍においてはプロダクション側・学校側双方の理由による公演中止が発生したが、R3年度はコロナにより来日不能となったカンパニーに代わり、「小さな島とエヴァ」を舞台美術のみ海外から運搬して日本人版として公演を実現させた。この公演は山間地域や離島、支援学級や軽度の障害のある子ども達も鑑賞し、コロナ禍においても地域の未来を担う子ども達に貴重な鑑賞体験の場を提供することができた。5年間の連携公演実施市町村：知立市、小牧市、半田市、西尾市、設楽町・東栄町・豊根村、新城市(中止)、碧南市)

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につなげた（と認められる）か。

国内外での評価の向上につながった（と認められる）具体的な事象は以下のとおり。

① 専門誌批評・テレビ・新聞等の取材

記事掲載件数(TV放送含む)：H30. 250件、H31(R1). 327件、R2. 175件、R3. 278件、R4. 329件

コロナ禍による事業数減により一時は減少したものの、R4年度には過去最高件数となり、5年間を通じた当館への注目度の向上が認められる。具体的な取材内容は以下のとおり。

<専門情報雑誌やWebメディアでの論評等>

- ・音楽専門誌「音楽の友」2019年1月及び2月号にて、H30年度のオペラ「バ스티アンとバスティエンヌ」について「創意あふれた良質な舞台」、「コンパクトな空間で新たなオペラの可能性を感じさせた」と評された。
- ・早稲田大学演劇博物館の企画展「コドモノミライー現代演劇とこどもたち」(R1. 11. 2-12. 25)及び当該図録にて、「こどもの中の多様性」の作品例として、H30年度「小さな島とエヴァ」が紹介された。
- ・ダンス専門誌「ダンスマガジン」2019~2022各年2月号における前年の「ベストステージ&ピープル」特集にて、専門家によって当劇場関係内容が複数選出された。

(R1 年度 NDT 関係で 7 名が選出、R3 年度「羅生門」関係で 4 名が選出 他)

- ・国際演劇評論家協会日本センター編の演劇批評誌「シアターアーツ第 66 号 2022 春 (特集 ジェンダーと舞台芸術)」にて、「地方の戯曲賞の現状」として、「AAF 戯曲賞」の審査員が男女同数であることが紹介された。
- ・カナダのダンス情報 Web メディア「dance international」(R3. 10. 5) の記事にて、「愛知県芸術劇場芸術監督に就任している勅使川原氏が、『風の又三郎』での若いダンサーへの振付の仕事を経て、コロナ禍において『羅生門』を東京・愛知で上演し、成功を収めた」と紹介された。また、R4 年度の再演には、演劇批評家・今野裕市が公明新聞において「その時にしかない感覚、瑞々しさ、一途さ…それがダンス表現として引き出されている」と評された (R4. 9. 16)。
- ・国内の Web メディアでのダンス公演レビューが複数確認された。
(演劇ジャーナリスト・伊達なつめ氏による「Stars in Blue」記事(H31. 3. 14「otocoto」)、音楽ジャーナリスト・池田卓夫氏による「風の又三郎」記事(R3. 7. 24「音楽ジャーナリスト@いけたく本舗」他)

<新聞・TV 取材>

- ・勅使川原芸術監督の就任発表(H30 年度)及び就任会見(R1 年度)は、中日新聞朝刊始め新聞各社にて取り上げられた(H31. 1. 23-24、R2. 1. 30)。また、R3 年度末から R4 年度にかけて、同監督によるダンサー養成ワークショップ等の活動を追う取材を受け、R4 年度美術教養番組にて放映された。(R4. 9. 25 NHK「日曜美術館」)。
- ・H30 年度コンサートホール・R1 年度大ホールのリニューアルの際に複数テレビ取材を受け、ニュース番組で放映された(H30. 11. 26 NHK、東海テレビ H31. 4. 23 テレビ愛知、メ〜テレ、R1. 5. 3NHK)。
- ・R1 年度・R3 年度の学校招待公演(劇場と子ども 7 万人プロジェクト)の際テレビ取材を受け、ニュース番組で放映された(R1. 6. 7 NHK「レクチャー&オペラ」、R4. 1. 14 NHK「小さな島とエヴァ」)。
- ・地域連携イベント「久屋ぐるっとアート」については、初年度である H30 年度は NHK のテレビ取材を受けニュース番組で放映された(H30. 11. 2)。R1 年度以降も中日新聞朝刊で取り上げられ、記事が掲載されている(R1. 11. 2、R3. 11. 4)。
- ・R4 年度「オープンハウス」については、老若男女問わず多くの方がツアーや自由見学を楽しむ様子がニュース番組で放映された。(NHK「東海ニュース」R4. 5. 7)

②観客の反応

観客アンケートにおける満足度は 96.1% (5 年間平均) と高い水準を維持し、またアンケート及び SNS からは下記のような感想が確認された。

- ・「ありが」(H30 年度 Twitter 投稿より)
2 年前に同じ会場で観た時の新鮮さとは又別な身体、言葉、声、サウンドそして照明が絡み合うパワーを感じた。6/26~29 は愛知県内の小中学生がこの公演に招待されるとのこと。素敵企画だ。
- ・オペラ「バスティアンとバスティエンヌ」(H30 年度 アンケートより)
大スクリーンの字幕とその内容が素晴らしく解りやすかったです。オケや指揮も取り込んだ演出の妙も楽しめました。予想外の前芝居から終わりまで、ユーモアあふれる舞台で良かったです。
- ・「オルガン・レクチャーコンサート」(R1 年度 アンケートより)
解説のお話がとてもおもしろくて、曲を聴くのが楽しみになり、安心して聞けました。オルガンもすばらしいけど話術もすばらしい。また来たいです。
- ・「NDT (ネザーランド・ダンス・シアター)」公演 (R1 年度 Twitter 投稿より)
ネザーランド・ダンス・シアター圧巻！4 作とも数年に一度出るかどうかという傑作。本当に今回の招聘ありがたや。客席ロビーの熱気の凄さは 20 年位思い巡らしても比較になる公演が思いつかない。
- ・芸術監督記念シリーズ「白痴」(R2 年度 アンケートより)
一切言葉のない時間のなかで、演者と照明と音楽と衣装が雄弁に物語を紡いでいて芸術の凄みを感じました。
- ・「N 響定期公演」(R2 年度 アンケートより)
もう演奏は最高だった！待ちに待ったかいのある、素晴らしい演奏！名古屋まで来てくれてありがとう。会場はコロナ対応含めてやれることは何でもやってる！という安心感。
- ・イスラエル・ガルバン「春の祭典」(R3 年度 Twitter 投稿より)
このコロナ禍に来てくれた意味は大きい！日本人の若いピアニストとするなど、チャレンジが多かったと思います。素晴らしい。
- ・「風の又三郎」(R3 年度 アンケートより)
素晴らしい舞台でした。美しく、静謐で、神秘的、そしてオーディションを経たダンサー達のパフォーマンス、勅使川原さんの関わる作品には魅了されます。ナレーションの声もぴったりでした。
- ・「羅生門」(R3 年度 アンケートより)
一瞬たりとも止まらぬ動きが緻密な心の動きを溢れさせ、とても感動的なダンスでした。あそこまで心を表現出来る技は見事です。
- ・AAF 戯曲賞公演「ねー」(R3 年度 アンケートより)
作品を通じて、この世の中に対するメッセージと 생각이、とても強く伝わってきました。この作品の内容が現実の世の中と地続きになっていることに、役者の方々は誠実に向き合い、丁寧に地道に積み重ねられたのだろうと思います。

・「メビウス」(R4 年度アンケートより)

60分、休憩なしで踊り、回転し、走り、リフト等、テンポの良さとスタッフの体力や身体能力、体幹力等、素晴らしかったです。もっと大勢の皆様に鑑賞して頂きたい演目でした。

③芸術監督・人材養成事業受講者・AAF 戯曲賞受賞者受賞者のその後の展開

・当館の芸術監督である勅使川原氏が「振付家、ダンサー、画家、彫刻家、デザイナーとして、動きの独自性の高さをもって新たな美学を創出した」との評価を受け、R4.7月のベネチア・ビエンナーレダンス部門で金獅子功労賞を受賞、同年10月には文化功労者に選出された。

・当館の職員として多数の創造作品制作に携わったエグゼクティブプロデューサー唐津絵理が R4 年度(第73回)芸術選奨において、文部科学大臣賞を受賞した。

・舞台芸術インターン受講生

インターン事業開始(H26年度)以降、受講生85名のうち14名について、舞台芸術に携わる仕事(劇場、舞台会社、劇団、フリーランス)に従事することとなったと報告を受けている(このうち本助成採択のH30年度以後の受講生では卒業していない学生も多いため、45名中2名となっている)。

・「風の又三郎」出演ダンサー

R3年度出演ダンサー11名のうち4名については、「羅生門」においてもダンサーとして出演。さらに、うち1名(リーダー役を担ったダンサー)について、新国立劇場オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」(勅使川原三郎演出、R4.5.19-22)への出演が決定している。その他、出演後の展開として、NBAバレエ団への入団(研究生)、地元劇団体現帝国への入団、演劇舞踊系大学合格、モザ・バレエ・スクール(ベルギー、R4.9開校)合格、コンクール受賞、舞台出演・振付等の報告を受けている。

・オルガニスト養成講座受講生

H30年度から連続して受講している1名について、当初は小学6年生で漠然と習い始めたが受講過程で本格的にオルガニストを目指すようになり、現在は高校に通いながら当劇場講座で月1回受講するとともに、別途レッスンを受けている状況である。なお、当人についてはテレビ取材・放映もされた(R3.9.21中京テレビ)。

・AAF 戯曲賞受賞者

過去の大賞受賞作家について、新人作家の登竜門と言われる「岸田國士戯曲賞」受賞あるいは候補作となる作家を輩出している。(助成期間中では、AAF 戯曲賞第15回の松原俊太郎、第11回の市原佐都子がそれぞれ第63回(H31)、第64回(R2)岸田賞受賞。また、第9回のサリ ngROCK、第16回の額田大志がそれぞれ第62回(H30)、第66回(R4)岸田賞候補作)

④視察・見学その他依頼

施設の見学・運営状況の視察として、5年間で61件・873名を受け入れた。また、学会での現場レポート・学術調査の依頼を受け、複数の寄稿を行なった。

⑤劇場職員に対する評価

当劇場は、(副)館長以下、音楽・演劇・舞踊の各分野の企画制作を担う専任プロデューサー及び広報マーケティング職員を擁しており、この職員達の経験の蓄積により事業を展開している。当該職員は官学民各分野から研修講師や支援員・各種委員としての派遣依頼も多く(H30年度からは名古屋芸術大学から半期の講義を受託、プロデューサーらが交替で講義を実施)、これは当劇場職員が高い専門性を有する人材・地域に貢献する人材として評価されていることの証左である。

(5) 持続性（平成30年～令和4年度 5か年分）

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営の面では、当財団はR2.3月に「愛知県芸術劇場第二期中長期計画」を策定し、劇場が取り組むべき事業の展開と目標を明らかにし、毎年度達成状況を評価し進行管理を行なうとともに、県関係団体の経営改善計画や指定管理者として毎年度行なっているモニタリング調査、利用者満足度調査等により、サービス向上や事業運営の改善に努めていた。採択を受けている本プロジェクトは、これらの計画等とも関連付けられており、各種計画等の推進により担保されている。

また、設置者かつ最大のステークホルダーである愛知県が、「愛知県文化芸術振興条例」(H30年制定)及び「あいち文化芸術振興計画2027」(R4年度策定)により当劇場を文化施策の重要な一翼を担っている施設と位置づけ、また当財団をR1～5年度までの5年間を期間とする指定管理者として任意指定（二度目）していることから、**県は劇場・当財団の事業運営を評価し、持続・発展することを認めているといえる。**

経営戦略（財務）面では、（一財）地域創造、大使館等からの補助金や協賛金の獲得による財源の確保を継続的に続けた。また、上述のとおり、当財団はR1年度から5年間指定管理者として任意指定されていることから、**県の劇場への持続的な財政支援（指定管理料収入）が裏付けられている。**

また当劇場の利用率はコロナ禍で一時低下したものの平均80%超の水準を保持している。多面舞台を有し大規模なオペラやバレエを上演できる圏域最大の大ホール、日本最大級のパイプオルガンを有したクラシック音楽に最適なコンサートホール、実験的公演が実施できる劇場として設計されジャンルにとらわれず自由に創造的な表現が可能な小ホールの3つのホールを有し、オーケストラや実演家団体、地域のバレエ団、マスコミ事業部等の利用が盛況で、利用者からはソフト面を含め丁寧にニーズを聞き取る劇場運営に対する高い評価を得ている。さらに大規模改修工事により施設・設備に対する満足度が向上していることから**今後も安定した施設利用料収入が見込まれる。**

上記に加え、さらなる安定的な財源確保に向けた戦略として、チケットの団体購入の促進や外部資金獲得に努めてきた。特に「賛助会員制度」については、R3年度からは制度を整え本格的に募集を開始し、**R4年度には15法人に賛同をいただいた。**多くの法人・個人の皆様に劇場事業を支援いただけるよう、引き続き地元企業等を中心に働きかけを進めていくことで、**持続的な収入確保が見込まれる。**

人事戦略（人材）面では、当財団の策定した「人材育成計画（H27年度策定）」に沿ってOJT・Off-JT・自己啓発支援・ジョブローテーション及びフォローアップを組み合わせて体系的に行なうことにより**職員の能力向上の取組み**を行なったところであるが、特に外部研修（Off-JT）については計画的に実施することで、より高いスキルを備えられるよう促進した。

また、専門性が求められるポジションについては県派遣職員から**プロパー職員への転換**（H30年度19名→R4年度22名）を進めており、県派遣職員の適切な配置を合わせて行なうことで、県とのつながりも維持している。さらに、人材の定着に関しては、**職員の無期転換**（H30年度0名→R4年度までに4名実施）を行なう等、労働環境の改善につなげている。

なお、R3年度からは**組織体制を見直し**、専任の館長（プロパー職員）を配置するとともに、3部制から劇場運営部・舞台技術部・企画制作部・広報マーケティング部・総務部の5部制とするほか、より専門性を高めるべくエグゼクティブプロデューサーを設け、執行体制の強化と各職員の一層のモチベーションアップを図ることで、**持続的な組織体制を整備した。**

ネットワークの構築については、名古屋市文化振興事業団との連携協定の締結継続（H29年度～）、**県内市町村劇場との共同招聘・共同制作等による事業連携**や民間を含めた県内外の劇場との定期的な情報共有、国内の芸術文化団体役員への就任、さらにはプロデューサーらの海外調査（海外からの招聘による見本市への参加を含む）やAAPPAC（アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟）への加盟等、**国内外の関係者との積極的な連携・交流を通じネットワークの構築・強化を行っている。**

また、勅使川原氏芸術監督就任（R2.4）による同氏のネットワークも活かした国内外のアーティストとの連携や、ダンス環境の整備と人材育成のため設立されたDance Base Yokohamaとの連携協定締結（R3.1）により、当劇場のさらなるプレゼンス向上を図った。

以上のように各視点から組織活動の強化・発展に努めるとともに、下記の **PDCA サイクル**によりプロジェクトを推進した。今後も継続していくことで、持続的に発展すると認められる。

P=企画会議（隔週実施。プロジェクト及び中長期計画を踏まえプロデューサーらによる企画の提案・検討及び決定する。）

D=公演等の事業実施（実施にあたっては、制作連絡会議(毎週実施)にて関係者が密に情報共有し、実施にあたって必要な調整を行なう。また統一フォーマットで公演概要資料をまとめ、当日運営にあたり漏れ落ちのないよう留意する。）

C=評価会

観客アンケート、出演者・スタッフの声、入場者数、予算・決算、広報結果等の実施結果を統一フォーマットの評価シートにまとめ、担当から役員まで関係者全員が一堂に会し、事業がプロジェクト達成にどのように働いたか、定量的・定性的な評価とともに課題についてディスカッションすることで、次回への改善を行なう場。R4 年度には見直しを行い、**実施運営面、企画・芸術面、年間評価**の3構成で評価を行う。）

A=企画等の見直し

評価会（令和4年度からは企画・芸術面の評価会）で議論された課題を踏まえて、次回企画会議に諮る

自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

上述した「愛知県文化芸術振興条例」において、愛知県芸術劇場の活用による新たな文化芸術の創造と国内外へ発信の他、文化芸術の担い手の育成、県民の鑑賞機会の充実及び高齢者、障害者の文化芸術活動の充実等が謳われている。当劇場の指定管理者である当財団は、これらの施策に寄与する専門知識、経験、ネットワーク等を有し、この助成事業「劇場による地域文化向上プロジェクト」の実施してきた。このことを積極的にアピールすることで、引き続き指定管理者として、安定した運営・財務基盤のもとでの事業継続を行なっていく所存である。

また、「(2) 有効性」で示したとおり、全13項目の指標のうち10項目を達成し、結果6つのうち3つのアウトカムの発現が認められた。未達成のものについても、目標に沿った取組みを継続的に続けていることで一定程度の成果を収めているものと認識している。未達となった理由は、コロナの影響によるところが大きいものと考えられるが、その影響からの回復が徐々に見られることから、今後も粘り強く取組みを進め、さらなるアウトカムの発現に努める。

当財団・劇場は、上述のとおり、安定した運営・財務状況、専門性の高い人材の育成・確保、国内外の劇場との広範なネットワークの構築を維持・強化してきたが、今後も、愛知県を始め官民からの支援を受けながら事業を計画的に実行しつつ、定期的にその結果を検証し、不断の見直しを行なう（PDCA サイクル）ことで、事業実施に伴うアウトカムの発現・定着が期待できる組織運営を目指していく。